ConBio2017大会運営についてのアンケート　集計結果

ポジション別：大学・研究所等の常勤研究者

回答者数：727名

アンケート結果を公表します。具体的な個人名、施設名を伏字とした他は、一切の加工をしておりません。
自由記述欄の批判的なご意見の中に、事実誤認に基づくものが多数ある事を申し添えます。
ご注意ください。

2017年度生命科学系学会合同年次大会（ConBio2017）
大会長
第40回日本分子生物学会年会　年会長　篠原　彰
第90回日本生化学会大会　　会　頭　大野茂男

ポジション別：大学・研究所等の常勤研究者

質問1. ConBio2017に参加されましたか

	項目	件数	割合
回答1	参加した	684	94.1%
回答2	参加しなかった	43	5.9%
	合計	727	

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問2. あなたのポジションは

	項目	件数	割合
回答1	学部学生	0	0.0%
回答2	大学院生	0	0.0%
回答3	ポスドク等非常勤研究者	0	0.0%
回答4	企業研究者	0	0.0%
回答5	大学・研究所等の常勤研究者	727	100.0%
回答6	その他	0	0.0%
	合計	727	

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問3. あなたの年齢は

	項目	件数	割合
回答1	19歳以下	0	0.0%
回答2	20-24歳	0	0.0%
回答3	25-29歳	15	2.1%
回答4	30-34歳	45	6.2%
回答5	35-39歳	104	14.3%
回答6	40-44歳	145	19.9%
回答7	45-49歳	149	20.5%
回答8	50-54歳	133	18.3%
回答9	55-59歳	83	11.4%
回答10	60-64歳	43	5.9%
回答11	65-69歳	9	1.2%
回答12	70歳以上	1	0.1%
回答13	回答しない	0	0.0%
	合計	727	

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問4. 所属する学会についてお聞きします ＜複数回答可＞

	項目	件数	割合
回答1	日本分子生物学会	507	69.7%
回答2	日本生化学会	343	47.2%
回答3	協賛団体	470	64.6%
回答4	協賛団体以外の学会	166	22.8%
回答5	その他	5	0.7%
	合計	1,491	

※割合は回答者数を母数にして算出しています

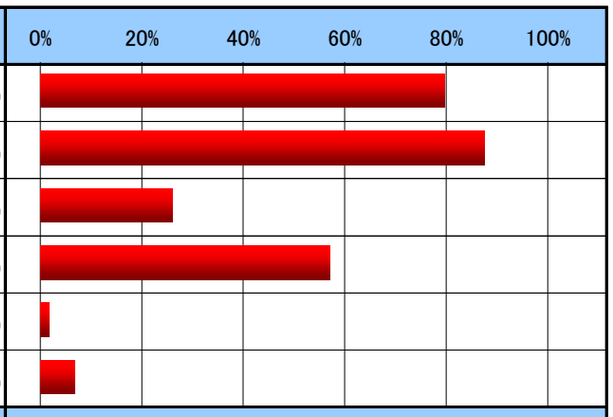
質問4-3. 協賛団体 詳細 ＜複数回答可＞

	項目	件数	割合
回答1	日本医学会連合	4	0.9%
回答2	生物科学学会連合	5	1.1%
回答3	自然史学会連合	1	0.2%
回答4	日本RNA学会	26	5.5%
回答5	日本味と匂学会	3	0.6%
回答6	日本医真菌学会	1	0.2%
回答7	日本遺伝学会	27	5.7%
回答8	日本遺伝子細胞治療学会	5	1.1%
回答9	日本宇宙生物科学会	7	1.5%
回答10	日本栄養・食糧学会	17	3.6%
回答11	日本エピジェネティクス研究会	15	3.2%
回答12	日本解剖学会	23	4.9%
回答13	日本癌学会	112	23.8%
回答14	日本がん予防学会	1	0.2%
回答15	日本寄生虫学会	4	0.9%
回答16	日本ゲノム編集学会	3	0.6%
回答17	日本ケミカルバイオロジー学会	12	2.6%
回答18	日本細菌学会	16	3.4%
回答19	日本細胞生物学会	70	14.9%
回答20	日本酸化ストレス学会	12	2.6%
回答21	日本時間生物学会	6	1.3%
回答22	日本実験動物学会	14	3.0%
回答23	日本神経病理学会	2	0.4%
回答24	日本人類遺伝学会	14	3.0%
回答25	日本生物物理学会	45	9.6%
回答26	日本生理学会	23	4.9%
回答27	日本蛋白質科学会	37	7.9%
回答28	日本動物学会	23	4.9%
回答29	日本バイオインフォマティクス学会	13	2.8%
回答30	日本発生生物学会	40	8.5%
回答31	日本比較内分泌学会	6	1.3%
回答32	日本微生物生態学会	4	0.9%
回答33	日本病理学会	11	2.3%
回答34	日本プロテオーム学会	12	2.6%
回答35	日本放射線影響学会	20	4.3%
回答36	日本免疫学会	27	5.7%
回答37	日本薬理学会	39	8.3%
	合計	700	

※割合は質問4-3「協賛団体」の回答者数を母数にして算出しています

質問5. ConBio2017に参加する目的は？ ＜複数回答可＞

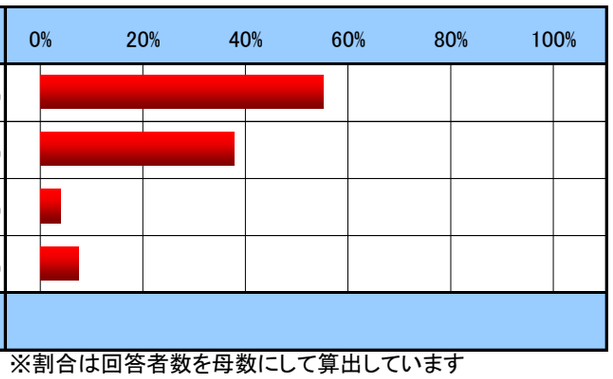
	項目	件数	割合
回答1	自身の研究成果の発表と宣伝	579	79.6%
回答2	最新の研究成果の情報の獲得	636	87.5%
回答3	研究の打ち合わせ	189	26.0%
回答4	知り合いとの交流	415	57.1%
回答5	就職活動	13	1.8%
回答6	その他	49	6.7%
	合計	1,881	



※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問6. 質問5の目的はConBio2017によって達成できましたか？ ＜複数回答可＞

	項目	件数	割合
回答1	期待通りに達成できた	401	55.2%
回答2	達成できたが期待よりはできなかった	275	37.8%
回答3	達成できなかった	28	3.9%
回答4	その他	54	7.4%
	合計	758	

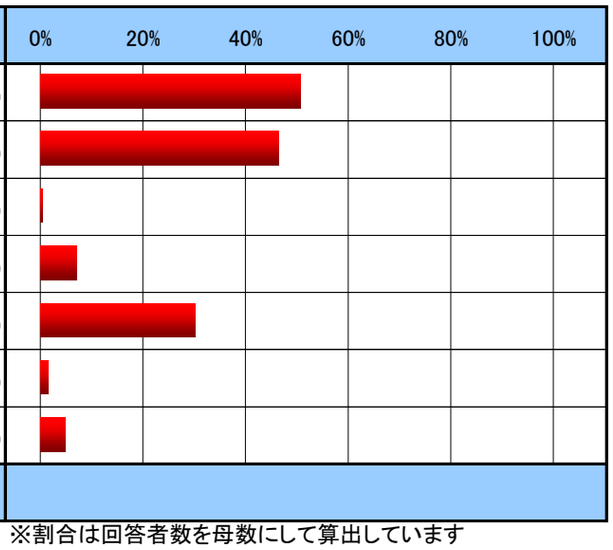


※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問7. ConBio2017の参加費は？ ＜複数回答可＞

※事前参加登録費：会員（一般）11,000円、会員（学生）3,000円、非会員（一般）17,000円、非会員（学生）5,000円

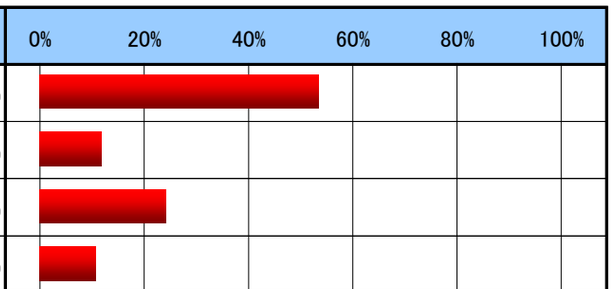
	項目	件数	割合
回答1	一般参加費は高すぎる	369	50.8%
回答2	一般参加費は適切である	338	46.5%
回答3	一般参加費は安すぎる	3	0.4%
回答4	学生参加費は高すぎる	51	7.0%
回答5	学生参加費は適切である	219	30.1%
回答6	学生参加費は安すぎる	11	1.5%
回答7	その他	36	5.0%
	合計	1,027	



※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問8. ConBio2017とこれまでの単独年会・大会、合同大会などと比較して全体的なご感想、ご意見をお聞かせください

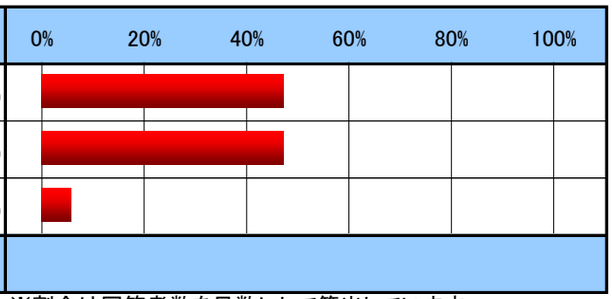
	項目	件数	割合
回答1	よかった	388	53.4%
回答2	よくなかった	85	11.7%
回答3	どちらでもない	176	24.2%
回答4	その他	78	10.7%
	合計	727	



※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問9. ConBio2017の規模は？

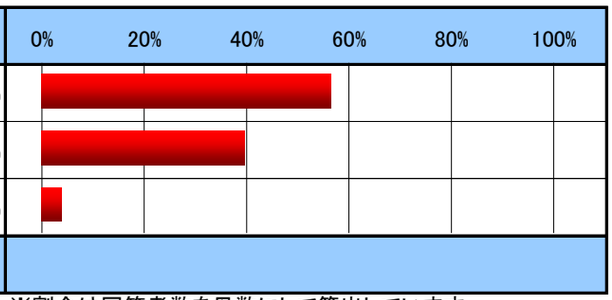
	項目	件数	割合
回答1	適当な規模である	343	47.2%
回答2	大きすぎる	343	47.2%
回答3	その他	41	5.6%
	合計	727	



※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問10. ConBio2017の適切と思う会期は？

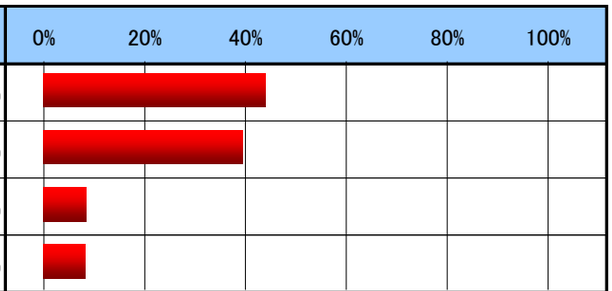
	項目	件数	割合
回答1	4日間	411	56.5%
回答2	3日間	288	39.6%
回答3	その他	28	3.9%
	合計	727	



※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問11. ConBio2017の開催期間に週末、祝日を含めるべきと思いますか

	項目	件数	割合
回答1	全て平日	320	44.0%
回答2	土曜日を含んだ方が良い	287	39.5%
回答3	日曜日、祝日を含んだ方が良い	61	8.4%
回答4	その他	59	8.1%
	合計	727	



※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問12. ConBio2017の適切と思う開催時期は？

	項目	件数	割合
回答1	このままの12月上旬が良い	561	77.2%
回答2	9月下旬が良い	96	13.2%
回答3	別な時期が良い	20	2.8%
回答4	具体的な好ましい時期を記載してください	50	6.9%
	合計	727	

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問13. オンデマンド配信について、参加者の立場からのご意見をお聞きかせください ＜複数回答可＞

	項目	件数	割合
回答1	プレナリーレクチャーの「オンデマンド配信」動画が半永久的に保存・公開されることは、生命科学分野全体のためになり良い	396	54.5%
回答2	プレナリーレクチャーの「オンデマンド配信」は参加者のみの期間限定特典とするべき	127	17.5%
回答3	シンポジウム・ワークショップを「オンデマンド配信」で視聴できるのは良い	327	45.0%
回答4	シンポジウム・ワークショップの「オンデマンド配信」はメリットがある	253	34.8%
回答5	シンポジウム・ワークショップの「オンデマンド配信」はメリットがない	49	6.7%
回答6	シンポジウム・ワークショップのみならず、一般口頭発表にも「オンデマンド配信」を導入すべき	50	6.9%
回答7	「オンデマンド配信」の期間は短すぎる	60	8.3%
回答8	「オンデマンド配信」の期間は長すぎる	8	1.1%
回答9	「オンデマンド配信」を利用していないのでわからない	150	20.6%
回答10	その他	70	9.6%
	合計	1,490	

※割合は回答者数を母数にして算出しています

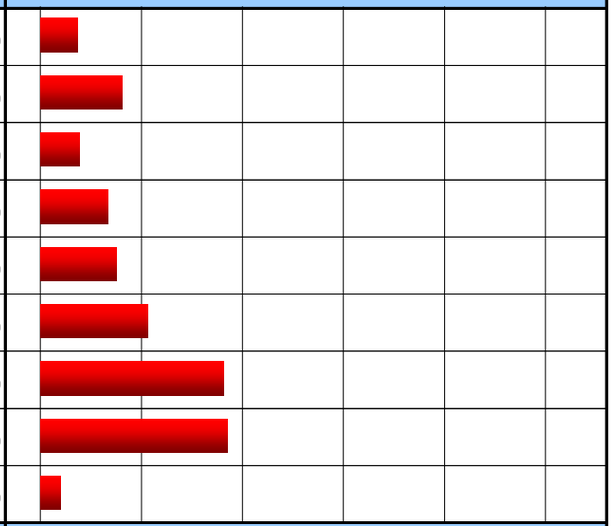
質問14. オンデマンド配信について、発表者の立場からのご意見をお聞きかせください ＜複数回答可＞

	項目	件数	割合
回答1	シンポジウム・ワークショップの「オンデマンド配信」はメリットがある	450	61.9%
回答2	シンポジウム・ワークショップの「オンデマンド配信」はメリットがない	159	21.9%
回答3	その他	156	21.5%
	合計	765	

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問15. ConBio2017における以下の取り組みについて、良かったと思うもの ＜複数回答可＞

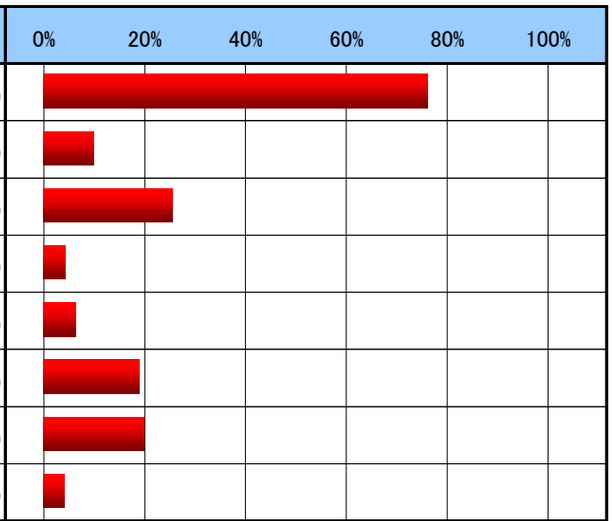
	項目	件数	割合
回答1	FAOBMB Programs	53	7.3%
回答2	高校生発表	117	16.1%
回答3	製薬・創薬面談コーナー	56	7.7%
回答4	ランチタイムキャリアセミナー	97	13.3%
回答5	出展企業への対応（企業展示見学時間帯の設定）	110	15.1%
回答6	出展企業への対応（企業ランチョンセミナーと他プログラムの並行をできるだけ避けた構成）	155	21.3%
回答7	出展企業への対応（バーコードリーダー導入による、出展企業への大会参加者〔顧客〕情報提供）	264	36.3%
回答8	特になし	269	37.0%
回答9	その他	29	4.0%
	合計	1,150	



※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問16. シンポジウムとプレナリーレクチャーについて ＜複数回答可＞

	項目	件数	割合
回答1	テーマは適切である	553	76.1%
回答2	テーマが偏っている	72	9.9%
回答3	協賛団体の参加により興味深いテーマが増えた	185	25.4%
回答4	協賛団体の参加により興味深いテーマが減った	31	4.3%
回答5	海外からのシンポジストの数は適切であった	46	6.3%
回答6	海外からのシンポジストはもっと増やしたほうがよい	137	18.8%
回答7	特になし	144	19.8%
回答8	その他	29	4.0%
	合計	1,197	



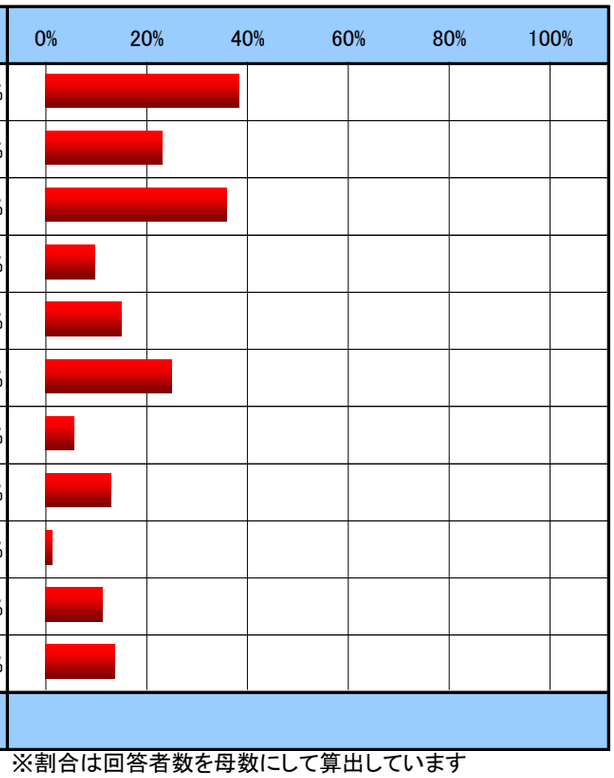
※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問17. ワークショップについて ＜複数回答可＞

【当該設問の結果について】
委託先のアンケートシステムの問題により正常に回答が取得できていないことが確認されたため、
非公開とさせて頂きます。ご了承ください。

質問18. 一般演題について ＜複数回答可＞

	項目	件数	割合
回答1	プログラム編成・日程振り分けはよかった	278	38.2%
回答2	プログラム編成・日程振り分けに不満が残った	167	23.0%
回答3	ポスターセッションの時間（2時間30分）はちょうどよい長さだ	261	35.9%
回答4	ポスターセッションの時間はもっと長いほうがよい	71	9.8%
回答5	ポスターセッションの時間はもっと短くてよい	109	15.0%
回答6	ポスターから一般口頭発表に採択されるシステムはよかった	182	25.0%
回答7	ポスターから一般口頭発表に採択されるシステムに不満が残った	40	5.5%
回答8	協賛団体の参加により興味深いテーマが増えた	94	12.9%
回答9	協賛団体の参加により興味深いテーマが減った	9	1.2%
回答10	特になし	81	11.1%
回答11	その他	99	13.6%
	合計	1,391	



※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問19.　企業展示会について　＜複数回答可＞

	項目	件数	割合
回答1	参加した	433	59.6%
回答2	参加しなかった	173	23.8%
回答3	よかった	169	23.2%
回答4	よくなかった	10	1.4%
回答5	特になし	123	16.9%
回答6	要望・その他	17	2.3%
	合計	925	

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問20.　ランチョンセミナーについて　＜複数回答可＞

	項目	件数	割合
回答1	参加した	222	30.5%
回答2	参加しなかった	422	58.0%
回答3	よかった	86	11.8%
回答4	よくなかった	18	2.5%
回答5	特になし	69	9.5%
回答6	要望・その他	84	11.6%
	合計	901	

※割合は回答者数を母数にして算出しています

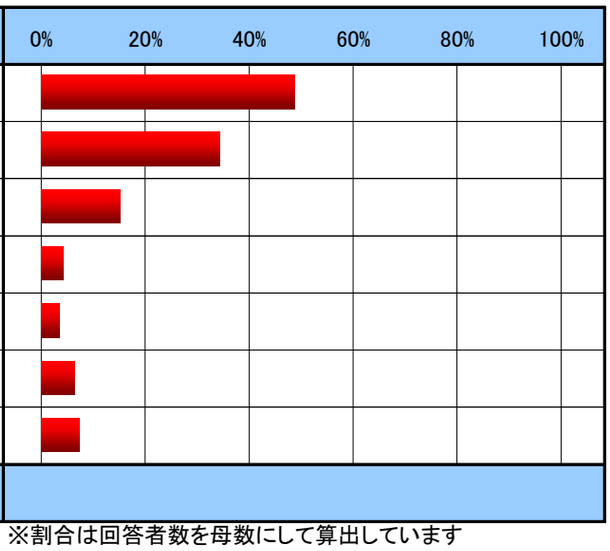
質問21.　ITシステム（WEBシステム・アプリ）について　＜複数回答可＞

	項目	件数	割合
回答1	基本機能である「プログラム検索・要旨閲覧」は使いやすかった	418	57.5%
回答2	基本機能である「プログラム検索・要旨閲覧」が使いにくかった	87	12.0%
回答3	WEBシステムとアプリで「マイスケジュール」が同期できて便利だった	202	27.8%
回答4	「マイスケジュール」が使いにくかった	60	8.3%
回答5	「会場ナビ機能」が役に立った	62	8.5%
回答6	「会場ナビ機能」は役に立たなかった	56	7.7%
回答7	アプリについてはオフライン利用のみで十分であると思う	29	4.0%
回答8	「SNS機能（参加者⇔発表者）」が役に立った	22	3.0%
回答9	ITシステム全般について評価していない	26	3.6%
回答10	特になし	140	19.3%
回答11	その他	101	13.9%
	合計	1,203	

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問22. 今後の大会の開催形式について ＜複数回答可＞

	項目	件数	割合
回答1	今回と同様に多くの学会が参加する形式の開催がよい	354	48.7%
回答2	分子生物学会と生化学会のみの合同開催がよい	250	34.4%
回答3	分子生物学会・生化学会それぞれ単独開催がよい	110	15.1%
回答4	分子生物学会または生化学会と他学会との合同開催がよい	30	4.1%
回答5	分子生物学会または生化学会との合同開催が可能な学会にはどのような学会がありますか	25	3.4%
回答6	特になし	47	6.5%
回答7	その他	53	7.3%
	合計	869	



※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問2. あなたのポジションは （その他）	
回答者番号	その他記述
	記述なし

質問4-4. 所属する学会についてお聞きします ＜複数回答可＞ （協賛団体以外の学会）

協賛団体以外の学会記述	件数
日本薬学会	10
日本神経科学会	5
日本農芸化学会	5
日本化学会	3
日本植物生理学会	3
日本神経科学学会	3
日本進化学会	3
日本糖質学会	3
日本結晶学会、日本中性子科学会	2
日本生物工学会	2
AAI, ASBMB	1
ASBMBアメリカ血液学会	1
CBI学会	1
がん分子標的治療学会	1
がん分子標的治療学会、がん転移学会、日本RNAi研究会	1
ゲノム微生物学会	1
ビタミン学会、日本フードファクター学会	1
ペプチド学会	1
リウマチ学会	1
応用数理学会	1
極限環境生物学会	1
酵母遺伝学フォーラムセラミド研究会	1
細胞生物学会	1
蚕糸生物学会応用動物昆虫学会	1
植物細胞分子生物学会植物生理学会植物学会植物化学調節学会	1
植物生理学会	1
生命の起原および進化学会、日本進化学会	1
日本DDS学会	1
日本DDS学会日本バイオマテリアル学会日本化学会日本高分子学会	1
日本アレルギー学会	1
日本ウイルス学会	1
日本がん分子標的治療学会	1
日本がん分子標的治療学会日本放射線腫瘍学会	1
日本バイオフィルム学会	1
日本ビタミン学会、日本骨代謝学会、日本軟骨代謝学会、日本農芸化学会、日本化学会、日本薬学会	1
日本ペプチド学会、高分子学会	1
日本ホスファターゼ研究会	1
日本栄養改善学会、日本食品加工学学会、日本未病システム学会	1
日本化学会,日本農芸化学会,病態生理学会,	1
日本化学会、高分子学会、日本油化学会	1
日本核磁気共鳴学会	1
日本環境変異原学会	1
日本環境変異原学会、日本進化学会、日本昆虫学会、など	1
日本癌学会・日本小児科学会・日本小児血液がん学会	1
日本癌学会日本基礎老化学会	1
日本眼科学会	1
日本結核病学会日本バイオフィルム学会American Society for Microbiology	1
日本結晶学会	1
日本結晶学会、日本薬学会	1
日本血液学会	1
日本血液学会日本がん分子標的治療学会	1
日本血管生物医学会	1
日本血栓止血学会	1
日本顕微鏡学会	1
日本公衆衛生学会、ACS	1
日本骨代謝学会	1
日本再生医療学会、日本肥満学会	1
日本脂質生化学	1
日本歯周病学会	1
日本質量分析学会、日本医用マス学会	1
日本実験動物学会	1
日本獣医学会　日本肥満学会　米国生理学会　日本実験動物医学会	1
日本獣医学会、日本内分泌学会	1
日本小児血液・がん学会	1

質問4-4. 所属する学会についてお聞きします ＜複数回答可＞ （協賛団体以外の学会）

協賛団体以外の学会記述	件数
日本植物学会，日本植物生理学会	1
日本植物学会日本植物生理学会	1
日本植物生理学会、日本植物学会、植物化学調節学会、日本農薬学会、日本農芸化学会	1
日本植物生理学会、日本植物学会、日本植物細胞分子生物学会、植物化学調節学会、日本農芸化学会、日本育種学会	1
日本植物生理学会、日本農芸化学会	1
日本神経科学会、日本神経精神薬理学会、日本薬学会	1
日本神経科学会、日本生物高分子学会	1
日本神経科学学会、ASCB	1
日本神経科学学会、日本神経内分泌学会、日本組織細胞化学会	1
日本神経科学学会、日本内分泌学会	1
日本神経精神薬理学会	1
日本水産学会日本藻類学会日本農芸化学会	1
日本整形外科学会	1
日本生体防御学会、日本農芸化学会	1
日本生態学会	1
日本生物学的精神医学会、日本神経科学会、北米神経科学会	1
日本生物教育学会	1
日本生物工学会、日本動物細胞工学会、化学工学会	1
日本生物工学会、日本農芸化学会、日本糖質学会	1
日本組織細胞化学会　日本内科学会　日本循環器学会	1
日本組織細胞化学会、日本基礎老化学会	1
日本組織培養学会	1
日本組織培養学会、日本再生医療学会、日本基礎老化学会、日本がん分子標的治療学会	1
日本畜産学会，日本ウマ科学会，日本家禽学会，日本動物遺伝育種学会	1
日本畜産学会日本家禽学会	1
日本電気泳動学会	1
日本糖質学会、日本薬学会、再生医療学会	1
日本糖質学会日本がん転移学会日本臨床検査医学会	1
日本糖尿病肥満動物学会、日本臨床分子医学会	1
日本内分泌学会、日本糖尿病学会	1
日本内分泌学会、日本糖尿病学会、日本内科学会	1
日本内分泌学会、日本糖尿病学会、日本肥満学会、日本神経科学会	1
日本内分泌学会日本神経内分泌学会	1
日本認知症学会	1
日本脳神経外科学会、日本脳腫瘍学会、癌治療学会	1
日本農芸化学会、酵母遺伝学フォーラム	1
日本農芸化学会、酵母遺伝額フォーラム	1
日本農芸化学会、日本育種学会	1
日本農芸化学会、日本食品科学工学会	1
日本農芸化学会、日本生物工学会、酵素工学研究会	1
日本農芸化学会、日本生物工学会、日本きのこ学会、糸状菌分子生物学研究会	1
日本農芸化学会、日本生物工学会、日本ビタミン学会、日本応用糖質科学会	1
日本農芸化学会、日本腐植物質学会	1
日本農芸化学会、日本防菌防黴学会、日本食品微生物学会	1
日本農芸化学会日本応用糖質科学会酵素工学研究会	1
日本農芸化学会日本生物工学会日本生物高分子学会	1
日本農芸化学会日本薬学会	1
日本比較免疫学会	1
日本微生物資源学会	1
日本微量栄養素学会	1
日本病態プロテアーゼ学会	1
日本物理学会、米国生物物理学会	1
日本法科学技術学会	1
日本薬学会　日本医療薬学会	1
日本薬学会，日本糖尿病学会，日本臨床化学会	1
日本薬学会、日本炎症・再生医学会	1
日本薬学会、日本結晶学会	1
日本薬学会、日本再生医療学会、日本プロテオーム学会、レギュラトリーサイエンス学会、日本毒性学会、日本食品化学学会、人工知能学会、アメリカ化学会	1
日本薬学会、日本脂質生化学会、日本動脈硬化学会	1
日本薬学会、日本神経科学会	1
日本薬学会、日本神経科学学会、日本疼痛学会、日本緩和医療薬学会、日本緩和医療学会、日本医療薬学会、日本臨床腫瘍薬学会、日本神経精神薬理学会、日本依存神経精神科学会、日本アルコール・薬物医学会	1

質問4-4. 所属する学会についてお聞きします ＜複数回答可＞ （協賛団体以外の学会）

協賛団体以外の学会記述	件数
日本薬学会、日本認知症学会、日本病態プロテアーゼ学会	1
日本薬学会日本認知症学会	1
日本臨床検査医学会、日本検査血液学会	1
日本老年医学会、日本基礎老化学会、日本未病システム学会、日本栄養食糧学会、日本ビタミン学会	1
農芸化学会	1
農芸化学会植物生理学会	1
薬学会、脂質生化学会	1
薬学会、日本プロテインホスファターゼ研究会、酵母遺伝学フォーラム	1
臨床ストレス応答学会	1
臨床腫瘍学会、癌治療学会	1

質問4-5. 所属する学会についてお聞きします ＜複数回答可＞ （その他）

回答者番号	その他記述
※	酵母研究会、日本バイオインダストリー協会
※	日本顕微鏡学会
※	日本環境変異原学会は協賛できることを知りませんでした。案内が欲しかった、あるいはもっと周知させることを考えてほしかった。
※	無所属
※	無所属

質問5. ConBio2017に参加する目的は？ ＜複数回答可＞ （その他）	
回答者番号	その他記述
※	学生の発表指導
※	学生の経験のため。
※	機器・試薬メーカーブースの見学。
※	企業展示での情報収集
※	参加しなかった。
※	企業ブースやバイオリソースの情報を得るため
※	異なる研究分野の情報収集有用な実験器具、試薬の探索（企業ブース）
※	最新商品の情報の獲得
※	企業等が販売している研究ツール・リソース情報の収集
※	企業展示巡り
※	企業展示
※	・関連分野の全般的な空気を知るため
※	学会活動の打ち合わせ
※	委員会出席
※	展示ブースでプロジェクト宣伝を行う
※	企業ブースでの情報収集
※	学会の動向を知るため
※	参加しなかった
※	不参加につき該当選択肢なし
※	企業展示
※	学生の教育の場として
※	理事会など
※	論文不正問題についての研究者の意識を知るため
※	ワークショップオーガナイザーと口頭発表の座長
※	フォーラムのオーガナイザーとして参加。
※	最新のバイオメーカーの商品情報の収集
※	各異分野の最新の研究状況を知るため
※	参加していない
※	自分の研究に役立つ情報の収集
※	企業ブースにて、各企業に関連する実験技法についての相談
※	ワークショップでの発表
※	不参加
※	オーガナイザー
※	情熱を感じに。
※	ワークショップの組織
※	不参加のため
※	不参加のため
※	参加しなかった
※	最新の分析機器の情報収集
※	自分の研究分野とはあまりに隔たりがあるために、日頃は積極的に情報収集をしなかったり存在自体を知らないような研究の話を、ほぼ偶然的に目にとまることで聞けることも、分子生物学会の楽しみです。
※	分野違いのために普段聞くことができない研究者達の発表を聞くため。
※	ない
※	企業により提供される情報の取得
※	シンポジウムの担当となったから
※	共同開催学会についての情報収集
※	Workshopの企画と開催。
※	企業ブースでの機器情報の収集
※	学生の教育

質問6. 質問5の目的はConBio2017によって達成できましたか？ ＜複数回答可＞ （その他）	
回答者番号	その他記述
※	規模が大きすぎる
※	参加できなかった。
※	このような巨大学会では「どの講演を聞くべきか？」の判断がむずかしく、自分自身の関連分野に偏りがちであった。いつも通りポスター発表が情報収集には効率的であった。
※	参加しなかった。
※	不参加
※	規模が大きくなりすぎている感もある。
※	参加しなかった。
※	分子生物学会、生化学会は自分の研究の立ち位置とは異なりますが、熱気が感じられました。
※	行かなかった
※	大会が大きすぎてうまく演題を聞けなかった
※	自身の研究と関連の深い演題が少なかった。
※	シンポジウムやワークショップで関連するテーマが重複していて十分に聴講できなかった。
※	異分野の研究者との情報交換ができた点はたいへん良かった
※	参加しなかった
※	不参加につき該当選択肢なし
※	研究外の日常業務が忙しくなり、全日参加ができなかった。事前に最も興味をもっていたポスター発表が不在日になされており、要旨以上の情報が得られなかった。
※	不参加のため達成できずです。
※	自分に関連する分野の発表が少なかった。
※	不参加のため
※	プログラムの不備発表者の目次がなかった
※	ただし情報収集の面は、大会の規模が大きすぎるので、規模の割にはあまり期待はしておらず、かなりテーマを絞って情報収集してきました。
※	私たちが企画したワークショップ（遺伝学・光遺伝学を用いた神経回路形成研究）は、分子生物学界において少数派である神経科学を充実させる目的もありましたが、同じ時間にその数少ない神経科学セッションのもうひとつであるFrontiers in technology for neuroscienceが組み込まれ、聴衆が分散されました。「オンデマンドで後からみればいい」という意見もありますが、会場で直接意見を交換する機会というのは何物にも代え難いものがあります。今後は似た分野のセッションが重複しないように配慮いただければと思います。
※	ほぼ達成できたが、ポスターの件数が多すぎて、目的のポスターの場所が判り難かった。
※	参加しなかった
※	参加していない
※	会場数が多すぎ、聞きたいセッションの重複が多々ありました。
※	発表分野が2日間にまたがっていたため、会えない人が多かった。
※	同じ様なテーマの演題を同時に講演されるとどうにもできないサテライトの用意にお金がかかるなら、キーワードでかぶる演題は日時をずらしてほしいたとえば、2日目の午前中国際会議場でシングルセルをテーマにしたシンポジウムを行い、国際展示場でシングルセルを用いたがん治療対策のワークショップを行うとどちらか片方しか聞くことができないので困る
※	不参加
※	参加していない
※	会場が広すぎて、体力的にいろいろな講演を聞くのは難しかった。
※	参加しなかった
※	自分のポスター発表が奇数グループだったが、同じく奇数グループで聞きたい演題を聞けなかった。
※	会場全体の規模が大きすぎ、参加したい分野の発表が同時間帯に集中し、参加したいワークショップ、シンポジウムの参加が物理的に困難。
※	あまりにも多くのワークショップが平行しているため、目的とするワークショップに参加できない場合が多かった。また、午前と午後のセッションの時間に間がありすぎるため、待ち時間が多く、時間を有意義に使用できなかった。協賛学会を増やす事で他分野の意見を取り入れることは重要だと感じるが、あまりに規模が大きくなりすぎることは、逆にマイナス要因を増していると感じる。結局は自分の興味のあるワークショップにしか出席せず、協賛学会を増やしたことによるメリットが感じられない。その他のマイナス要因：学会近辺の混雑、会場の不明瞭さ、連絡の取りづらさ
※	パラレルに開催されているセッション数が多すぎ、同じ時間帯に類似分野のセッションがかぶっていることも多かった。ポスター数も多かったため、興味のあるポスターを時間内に全て見ることはできなかった。
※	新しい共同研究の芽生えを産みたかったが、残念ながらWSが最終日だったこともあり、十分な手応えを得る時間がなかった。これは大会運営の問題ではなく、致し方ないことだった。
※	参加しなかったのでわからない
※	不参加のため
※	不参加のため
※	参加しなかった
※	参加しなかったので、達成しなかった。
※	多くのセッションがあり、情報収集という面ではいろいろと面白い発表を聞くことができた。
※	質問の回答項目が不適切。
※	ワークショップ数が多く、また分野が近い企画が同時間に行われていたことが多く、結果的に見逃すことになった企画が多くなった。分野や順番を意識したプログラム編成を望みます。

質問6. 質問5の目的はConBio2017によって達成できましたか？ ＜複数回答可＞ （その他）	
回答者番号	その他記述
※	ほぼ期待通りに達成できたが、会が大きいが故に、会いたい人に会えなかった。大きいことは大変なメリットであるが。
※	他の学会と重なっていたため、不参加
※	参加できなかったので、達成できていない。
※	あまりに会場が大きく発表が多すぎて、発表による成果の流布も情報の収集も思うようにできなかった。
※	今年は都合により、参加できなかった。
※	参加していない
※	ConBio2017は明らかに規模が大き過ぎました。BMB（日本分子生物学会と日本生化学会の合同大会）だけでも適正規模を超えていると思うのに、まったくすごいことをやるものだと参加前から思っていました。
※	人が多すぎ。並行してのシンポジウムが多すぎ。

質問7. ConBio2017の参加費は？ ＜複数回答可＞ （その他）

回答者番号	その他記述
※	学部生を無料にして欲しかった
※	学部生無料制度は復活させるべき
※	非会員はもう少し高くても良い。この価格設定では、入会するメリットが足りないと感じる。
※	これまで通り、学部学生は聴講を無料にすべきでした。
※	参加者数が多い合同大会とそうではない単独開催とで、参加費にちがいがあるのが適切であるかはよくわからない。
※	学生はもっと安くしてほしい。会員を増やすためには会員（学生）は無料でも良いのでは。また発表はできないが、お試しで参加させたい場合には、非会員（学生）の値段は高い。一般と学生の間の資格がほしい。 実験補助員や研究生などは一般では高い。大学には自由になるお金が少ないので、高いと連れてこれない。
※	一般参加費は高いが他の大きな学会でも同等であり、やむ得ない。学生参加費を安く抑えている点が良い。
※	学生のうち、学部生は無料にした方が良かったと思います。
※	学部学生の参加費ですが、昨年までは無料だったように思います。勤務校は神戸にあるので、神戸で学会があるときは、学部の２－３回生に覗きに行くことを強く進めていたのですが、非会員の学生参加費が5000円では、すすめることができません。学部生の参加費は是非無料に戻して頂けたらと思います。
※	学部生は会員でなくとも無料で参加できるようにした方が良いと思います。
※	参加者が多く大きな会場が必要なのでやむを得ない
※	大学院生は参加費有料でいいが、参加のみ発表なしの学部学生は無料にしてほしかった（２年前のように）。生物系の学部生（３、４年生）が先輩の発表を聞いたり、著名研究者の講演を聴いたり、他大学の発表を聞いたりすることは、研究を始める際のモチベーションを高める上で非常に有益である。２年前にそう感じた。
※	参加費一般　1万円内に収めた方がいいと感じるものの、今回、・プレナリーレクチャーでの豪華な講演者・オンデマンド配信が非常によく感じたので、それができる費用と考えると仕方がないかもと思います。
※	国、県や市からの支援等でもう少し会費を抑えた方が、さらに参加者の増加が見込めるのではないでしょうか。７、８千円が妥当と思います。
※	不参加のため不明
※	オンデマンドの費用が高すぎたせいなのか、学部生からも参加費を徴収したと聞きました。科学者を志す学生が減少する中、学部生の参加を促さないのは悪手だと思います。「たかが3000円」は大人の発想で、学生にとっては決して安いお金ではありません。学界は将来を担う若手の支援をすべきだと思います。
※	学会費が研究費から出せるなら負担はないかもしれないけれども、一般的に1万を超えるのは高いと思います。
※	参加費は高くても構わないので、会期を長くして詰め込みすぎなスケジュールを直してもらいたい
※	参加費は適切ではあるとは思うが、参加費を下げる努力は是非ともお願いしたい。
※	とにかく高いので、研究室の所在地から遠いだけで参加を見送る十分な要因になる
※	1万円超えると高く感じる。非会員は国際学会並みに見える。
※	会費の内訳を知りたいです。
※	この値段なら、ランチョンセミナーで必ず昼食や飲み物が確保される医学系の学会と変わらない。
※	合同開催で得られる情報や交流が分子生物学会単独開催を上回っているとは言い難い。
※	できれば一般参加費は10,000円以内が望ましい。可能であれば学部学生は無料で参加させて欲しい。特に、開催地が大学に近い場合には、地の利を活かしてできるだけ多くの学部学生を参加させることが望ましい。学部時代に学会の雰囲気を感じることで、大学院進学のモティベーションも向上することが期待できる。
※	学生は無料にすべき
※	この学生参加費にするために一般会員の参加費をこの額にせざるを得ないなら仕方がないと思う。
※	スパコン、放射光など周辺施設のラボツアーなどのオプションもあると良い。
※	学部学生から参加費をとるのは辞めた方が良い
※	学生参加費は、院生と学部生で分けてはどうか。学部生は無料として参加を促し、大学院進学率の向上を目指してはどうか。
※	高すぎるとは思わない。ただし、自分の所属機関では学会費は私費扱いなので、可能なら安い方がよい。
※	学会規模を大きくしすぎたために参加費が上がった印象。
※	１日だけ参加、その減額参加費などがあると良い
※	明らかに高いと思います。研究予算からではなく、自腹で参加費を支出している人も多いと思います。 自腹で参加費を支出している人の割合がどのくらいなのかは調査をして把握しておくべきだと思います。
※	一般参加費、許容範囲内ではあるが、高いことは高い。
※	オンデマンド配信を行う前提であれば、一般参加費は適切である。オンデマンド配信がないとすると、高すぎる。

質問8. ConBio2017とこれまでの単独年会・大会、合同大会などと比較して全体的なご感想、ご意見をお聞かせください （その他）	
回答者番号	その他記述
※	特に大きな変化は感じられず、普段通りの日本分子生物学会出会ったと思う。つまり、これらの学会は統合して良いということを意味する。
※	等ござれる内容はこれまでの大会と大きな違いがあったとは考えておらず協賛する事で新たに多様性が導入されたとまでは感じられない。
※	関連のセッションが同日の同時間に3つも重なっており、非常に不満が残る。さらに最終日の午後ということもあり、参加したがったが、帰りの都合で参加できなかったというしりあいが多くいる。
※	多くの団体が参加したが、研究内容に大きなギャップは感じなかった。お互いの研究を理解しながらも相補的な情報が得られるちょうど良い距離感を感じた。今後も合同の形式が良いのではないか。しかし、参加人数が多すぎて部屋には入れないことが多々あった。そこは今後の大きな課題である。
※	生化学会と分子生物学会は●●先生も今回講演中に繰り返し言われたように同時開催で良いと思うが、今回は規模が大きすぎてセッションが重なりすぎ、良くなかった。
※	全体にはよかったが、学会の枠をこえたシンポジウム・ワークショップの企画が少なかった。
※	参加しなかったが、まとめた方いい。
※	不参加のため不明
※	規模が大きすぎる
※	単独年会と違いはあまり感じられませんでした。
※	単独開催ではお会いできない先生方に自身の発表を聞きに来て頂けた。
※	協賛学会は自分の年会プラスワンのつもりで参加してメリットはあるだろうが、分子生物学会や生化学会は年1度の大会であり、ただでさえ規模が大きいのにさらに大規模化する意味はあるのだろうか？
※	地学系学会も「地球惑星科学連合」として年会を開催しており、合同さらには連合に進むことが「生命科学」の発展を推進し、科学学術の世界で発言力を増すために必要である。
※	あまり協賛の色は出ていないように感じる。これまでの、分子単独やBMBとかわらない印象。本当に枠を超えて行うなら、それなりの準備が必要。
※	自身の研究と関連の深い演題が少なかった。
※	良い点：様々な学会から独自の企画が出ているので学会間の相互交流ができた。悪い点：多くを詰め込んでいるので、日時の重複があり参加できないプログラムも多かった。
※	参加者の研究分野に広がりが出た点が良かった。
※	研究者人口の減少と共に、日本の学会は、ますます小規模化、弱体化してきている。企業の出展経費負担も難しくなる中、出展そのものを取り止める企業も増えてきている。こうした問題点の解決策として、多数の学会による合同大会の開催が喫緊の課題であるので、今後も、この取組を継続、さらに発展させて欲しい。学会の協賛だけでなく、同時開催やサテライトミーティングといった形もあると思います。規模やカバーする分野の広さから言って、分子生物学会が中核にならざるを得ないと思うので、今後も、リーダーシップを発揮して頂きたいと思います。
※	分野が広くて普段聞けない分野の発表が聴けたのはよかったが、当然ながら分子生物学会らしさは見られず残念だった。但し事後にオンデマンド配信で発表を見聞きできるのは革新的で来年の単独開催でも実施して欲しいと思う。そのためならコストパフォーマンスがいいから参加費が高くても我慢する。
※	様々な分野の研究者が一同に会するという意味では、非常に意味ある学会であったと思うが、逆に分野が広すぎて、結局身近な分野の方々としか交流できなかったように思う。
※	ゴチャゴチャしすぎ。
※	共催のためか、シンポジウムは焦点が絞り切れていないような印象を受けました。
※	不参加につき該当選択肢なし
※	普段、接点の少ない他の関連学会の発表を聞けたことは良かったと思う。できれば発表ごとにどの学会からのものかをはっきりわかるように明示していた抱けると良かったと思います。
※	発表の時間帯が基本的に午前、午後一つずつしかなく、その分会場数が多くて会場間の移動が容易ではなかった（遠い）ため、オンデマンド配信がある発表は会場で聞くのを諦めることになった。関連分野のワークショップと一般口頭発表が同じ時間帯に行われたり、他分野の発表を聞きに行こうにも自分の分野の発表と重なっていたり、とにかくプログラムの組み方・会場の設定の仕方が良くなかった。
※	不参加のためどちらでもない。
※	以前までに行われた日本分子生物学会・日本生化学会の合同大会と今回の協賛学会が加わったConBio2017の違いをあまり感じられなかった。
※	不参加のため不明
※	分子生物学会単独開催との規模や内容などの違いをあまり感じなかった。
※	合同大会の意義が分かりにくかった。分生単独または分生・生化の合同と、今回のように多数の関連学会が参加したConBio違いというのが示せていなかったように感じた。コンセプトは非常によいと思う。
※	数十学界が協賛した痕跡は見られませんでした。不必要だと思います。
※	多数の人が参加するのは非常に良かったと思うが、シンポジウム、ワークショップ、一般口頭発表の枠が重なるのはよくなかった。
※	分野が広すぎて、関連性や興味のない分野も多く4日間のフォーカスが散漫であった。もし、関連するテーマで学会を超えて発表議論するというコンセプトにするのであれば事前に十分なプログラムの検討が必要であろう。種々の学会を単に混ぜてプログラムを作れば今回のように散漫で不消化で終わるであろう。
※	参加しいない
※	参加していないが、いっそのこと全部合体したらよいのでは。
※	初めて参加したので比較不可。
※	あまり違いは見られませんでした。

質問8. ConBio2017とこれまでの単独年会・大会、合同大会などと比較して全体的なご感想、ご意見をお聞かせください （その他）	
回答者番号	その他記述
※	良い意味でも悪い意味でも通常の合同大会との違いがわからなかった。良い意味とは、自然な形で他学会との協賛のシンポジウムなどがプログラムに組み込まれたため、通常の合同大会の延長として捉えることができ、不都合は特に生じなかった点で、これは良かったと思う。悪い意味とは、自然な形で他学会との協賛のシンポジウムなどがプログラムに組み込まれたために、特別な会合であることを意識しづらかった点で、もし今回の合同大会に特別な意味を持たせる糸が運営側にあったとすると、それはあまり機能していなかったように思う。
※	少々枠組みが大きすぎて、並列したセッションが多すぎたような気がします。特にプレナリーレクチャーは込んでいて入れない場合や、同時に進行しているセッションとの関係で参加できないものも多く、大学会の弊害のようなものを感じました。
※	似たようなセッションが乱立している、セッションを主催したい研究者が乱立している感じがした。まとまるなら、もっとまとまったらしい。
※	分生と生化は合同でやればよいと思うが、別に他の学会が協賛してやったところで、他の学会の年次大会で結局発表するわけだから、一緒にやる意義や必要性が全く感じられない。来年以降、もうこんな形でやらないで欲しい。
※	金曜日から参加したが、聴講したワークショップや一般口頭発表、シンポジウムの多くは空席が目立った。一方で、聴きたい発表の時間帯が重なっていたりした。口頭発表の演題数はもう少し少なくてもよいと思った。
※	不参加
※	参加していない
※	幅広い分野の研究者との交流ができたことはとてもよかったが、口頭発表などはより浅く広くとなってしまう傾向にあったのではないか。
※	両学会の会員ではないので比較できない
※	大変良かったと思うが、普段参加させて頂いているBMB（分生・生化）の合同大会と比べるともっと差別化できることは無いのだろうかと感じた。
※	広い視野で研究を俯瞰するに当たって、色々なセッションがあったのは非常に面白かったですしためになりましたが、一方で、聞きにいけなかったセッションがたくさんありました。
※	やってみること自体にはそれなりに価値があると思う。
※	初めての参加なので何とも言えない。
※	大きすぎて、かえって全体像を捉えにくかった。プログラムを見ても、どのセッションをどの学会が企画しているかがわからず、協賛学会の顔が見えるような構成ではなかった。混雑していて入れない会場も多いことに加え、関連分野のシンポジウム・ワークショップが併行して開催されているなど、巨大学会の弊害も多かったという印象。
※	初参加なので分かりません。
※	日本分子生物学会と日本生化学会以外の学会は、ConBio2017とは別にそれぞれ独自の年会を開催しているのではないか。それらの学会にとって、結局どのような意味があったのか、各学会の考えを総括してもらいたい。
※	講演の演目の多様性は確保されていたが、発表の質が担保されていない口頭発表も多く、玉石混交な度合いは、例年以上だった気がする。結果として、ConBioにしたものの、BMBの時よりも良くなったという感じでもなかった。
※	通常の分生、生化学会では一緒になることが少ない研究仲間と会うことができた。
※	良い面悪い面両方あり。会場が広すぎて移動が難しかったり、講演がかさなったり。
※	不明（不参加のため）
※	不明（不参加のため）
※	参加しなかったのでわからない
※	参加していないので、分からない。
※	多くの学会が参加したにも関わらず、いつもの分子生物学会であった。つまり、分子生物学会の年会とはもとからそのようなものであることを確認しただけでは。
※	協賛学会の企画のシンポジウムは、その学会の傾向がよく現れていて、例年には感じられない視点のテーマがあったように思う。特に、疾患の治療や予防は例年ではあくまで「側面」という印象だったが、今年は同じ「側面」だとしてもそのウェイトは大きかったように思う。具体的な応用に必ずしも結びつかないのが基礎研究だが、結びつけられるものは積極的にアピールした方が同分野のモチベーションに繋がると思った。
※	スケジュールに関して、ポスター発表は従来通りの夕方の方が良いと思いました。時間をあまり有効に使えませんでした。あと、プレナリーレクチャーは会場が狭すぎる。他にも（モニター等で）聴講できる部屋を幾つか用意して欲しかった。
※	協賛学会の関連する集会がかなり並行して行われており、各学会の集会の意味付けがよくわからない。とにかく会場と発表が多岐にわたり過ぎて雑多な感が強く、一か所に集まってやる意味が分からなくなってしまう。何年かに一度の万博のようなお祭りとしては良いかもしれないが、本来の学会年会に求める成果発表の場や情報収集、意見交換の意味では、かなりやりにくい大会であった。
※	良かったが　自分の所属する学会が協賛学会に参加しておらずその点は残念であった。
※	参加できなかったので、わからない。
※	非常に良かった。少なくとも生化学、分生は合同で行なって欲しい
※	シンポジウムやワークショップなど、大きな流れを確認するのには良いが、ポスター発表は興味あるポスターが分散してしまってしんどかった。
※	全体的にはよかった。・プレナリーレクチャーが大変充実していて、事前から楽しみにしていたし、実際に大変勉強になった。・LODは期待以上に質が高くストレスなく使えるので、今回のように大規模の大会では聞き逃しを相補する仕組みとして素晴らしい。予算をかける価値は高いと思う。
※	合同大会と大きな違いはなかったように思う。

質問8. ConBio2017とこれまでの単独年会・大会、合同大会などと比較して全体的なご感想、ご意見をお聞かせください （その他）	
回答者番号	その他記述
※	学会間で研究に対する姿勢の違いが明確になったと思う。研究はできないが政治で動く学会、研究内容を推進する学会などの差が明確になった。
※	今回のような巨大な大会に参加すると不謹慎ながら「赤色巨星」を思い浮かべてしまいます。分野が発展していくとどうしても巨星化していくのでしょうが、今後は規模が小さくても良いから、これから発展する分野（おそらく学際的で専門的な分野、例えば、クライオ電顕）に絞った会議や組織複数体系的に充実させていくことが巨大組織を「赤色巨星化」させないで巨大さの利点をうまく活かせる方法なのかもしれません。これらはかなりの議論を慎重に重ねて検討を継続していかなければいけないことなのだと思います。
※	とても素晴らしかった。会の垣根のない検討、討論、情報共有ができた有意義な機関であると考えます。
※	多くのテーマに関する講演が聴ける機会があったのは良かった。その分、聴きたい講演の時間が重なったことも多かった。後からビデオ配信があるのはありがたい。
※	人が多くて混乱し、会場を探すのに混乱し、自分達の発表会場と企業ブースしか居なかった。
※	試みとしては悪くないが、今後も毎回同様のスタイルで開催すると協賛学会の存在意義が薄くなるので、数年に1回程度でよいと思う。

質問9. ConBio2017の規模は？ （その他）

回答者番号	その他記述
※	学会には巨大学会と小さめの学会が並立して良いと思う。それぞれの役目が異なる。ConBio2017は巨大学会として、あらゆる分野をフォローするという位置づけで構わないと思う。近所のスーパーか、品揃えの豊富なデパートかということ。
※	部屋に入りきれず、講演が聴けないという問題が生じた。参加規模と言うよりは会場の割り振りの問題であると感じる。
※	大き過ぎる印象はあるけれど、時間配分や会場の設営方法で今の規模のままでも期間の短縮等が出来るかもしれない。
※	規模はよいが、会場が分散していたのは非常に不便だった。
※	適当といえば適当、大きいといえば大きい。
※	不参加のため不明
※	規模が大きいいのは良いが神戸の会場は分散しすぎている。
※	カバーする専門分野が広すぎる（規模が大きすぎる）という批判もあるが、必ずしも同じ分野の先生方が同じ学会に参加しているとは限らず、交流のためにはこの規模の大会もあっては良いのではないかと思う。
※	適切な開催方法をとれば大きいことはメリットとなっても、それ自体がデメリットとはならない。
※	幅広い分野の研究者間での交流促進を目的とするなら規模が大きい方が良いが、これ以上大きくなると、会議を延長する必要がある、会場間の移動が大変になる、宿泊場所が足りなくなる、等の弊害が出るため判断は難しい。
※	同時開催されるセッションが多すぎて、聞きたい演題（オンデマンド配信しない演題）が聴けないということがあった。
※	まだまだ小さい。
※	少し大きいかもしれませんがすぎるということはない気がします
※	大きすぎる学会でしたが、大変充実した内容で良かったと思いました。しかしながら、聞きたいシンポジウムやワークショックが重なってしまうことがありました。この規模の学会では会期がちょっと短い印象がありましたので、海外での国際学会の様に、会期を思い切って「1週間」くらいに設定してもよかったのではないかと思います。
※	人数は適切であるが、会場が広すぎる。
※	ポスター会場が広すぎて回りきれなかったという問題点はありましたが、少し離れた分野の研究発表も聞くことができたので、このような研究集会も必要と思いました。
※	事前アンケート（かなり前になるが）して、聞きたい人の人数にみあう部屋の大きさをきめてもらいたい。時間前に言っても立ち見も出来ないセッションもあった。差が大きいため、事前でもわかるであろう。アンケートは全員でなくていい。
※	参加人数を増やすために関連学会を多くすることはナンセンスである。テーマを決めて関連学会から参加者を募るべきである。
※	目的によっては大きすぎるが、こうした大きな学会もあってよいと思う。
※	巨大すぎて問題もがあるが、分生と生化が多きすぎて、2学会合同であれば他が加わっても大差ないので、どうせ巨大会議にするならConBioにするのも良いかと思います。
※	規模の大きいのは良いが、ポートアイランドでは無理では？ポートライナーのキャパシティーを超えている。
※	規模の大きいのは良いが、ポートアイランドでは無理では？ポートライナーのキャパシティーを超えている。
※	大規模ではあるが、多くのひとが集まる機会でもあるため、ある意味適切と言える。
※	何をもって大きい小さいを議論したいのか、その結果が何に反映されるのか、質問の意図が全く分からない
※	不参加
※	それが合同大会だと思っている。
※	大きさに驚きましたが、そんな学会があってもいい。
※	大きいので当然ですが、会場が分散してたのが厄介でした。仕方ないですが。かと言って、規模を縮小しては意味が無いので、難しいところ。
※	ポートライナーの輸送上限をはるかに越えており、ポートアイランドに通勤・通学する方々への影響は甚大。アイランド内の大学は授業開始の時刻をズラしたと聞いた。現実的な予算内での抜本的な解決方策がないのか。ないのなら、この規模の年会はしない方がよくはないか。
※	もっと多くてよい
※	不明（不参加のため）
※	不明（不参加のため）
※	会場がばらけすぎていて、移動がたいへん
※	せっかくの研究発表があるのに同時間帯に並行しているので、聞けないというデメリットは確かに感じる。一方で、これだけの参加者がいるからこそ、普段会えない人と会えるというメリットもあるので、そちらも貴重だと思う。
※	例年以上に（現実的な価格の）宿を取るのに苦労した。
※	規模としては許容範囲だと思うが、シンポ、ワークショップなどの企画数は絞るべき。
※	大きすぎる側面もあるが、大きさゆえのメリットも大きいので、大きすぎとは言いたくない。
※	神戸の会場にとっては大きすぎるプログラム全体のの内容としては広く全体をカバーできていないと感じたが、これを解決するにはより大きな規模の会場が必要だと思う。
※	学会としては大きい方が良いと思うが、ホテルがとりにくかった。
※	会場間の移動が

質問9. ConBio2017の規模は？ （その他）

回答者番号	その他記述
※	演題数の多さ、移動距離（精神的な感じ方も含めた距離）の長さも相当なもので、体調が万全なことは前提であり、それに加えて精神的に相当（！）高揚している状態を数日間持続し続けないと大会のメリット（理念？）を充分に享受することは無理だと思いました。 以上は、自分が発表しないで参加する場合のことです。これに自分の発表が加わるわけですから、時間がもっとタイトになり、上記のことがさらに重く感じるわけです。

質問10. ConBio2017の適切と思う会期は？ （その他）

回答者番号	その他記述
※	どちらでもよい
※	同じもしくは近辺の会場で1週間の間に各学会が別々に開催し、参加の互換性のみ維持する方がやりやすいと思う。
※	会期は規模に合わせれば良いと思う。ただし、初日の午前中と最終日の午後は参加者が少なくなるので、初日は午後から、最終日は午前のみにしてほしい。
※	どちらでも良いです。
※	学会の合同が進めば、もっと長くなっても良い。
※	5日間でも良いのでは
※	Q9に記載した通りです。
※	3日でも4日でもいいが、一日のスケジュールを見直してほしい。
※	会期をのばして、スケジュールに余裕が欲しい
※	シンポジウムやワークショップで聞きたいものがかなり重なってしまったので、今回のように規模が大きい場合は5日間程度あったほうがよい。
※	今回はごった煮の学会で、聞きたい参加したいセッションが散漫であり長く感じた。プログラムの組み方では3日でも4日でも可能だろう。
※	2日間
※	4日目がほとんど付け足しのような感じになっており、4日目(特に午後から夕方)の口頭発表、特に一般講演は聴衆がおらず、かわいそうな状況でした。せっかく口頭発表に採択されても、聴衆がいないところでの発表は意味がありません。3日間に朝から晩までびっちりと開催すべきと思います。
※	4日でいいけどその場合は火～金曜だと思う
※	その会期が必要なのであればどちらでもよい
※	今回の規模に対しては4日間くらいが適切だと思うが、多少規模を小さくして3日程度に収まるほうがよい
※	合同で4日間がベストです。単独で3日＋3日＝6日は長すぎます。
※	両学会の会員ではないのでわからない
※	合同学会開催はやめて欲しい。単独の方が質の高い大会になるのは明らかだと思うが、それをしないのは両方に属している会員が単に楽をしたいからではないのか。非常に迷惑である。
※	この規模でやるのであれば、現実的ではないが、7 – 10日は必要だと感じる。
※	今回の4日間でも見たい発表の時間が重なることがあったが、一般公演もLODがあるなら3日間でもいいと思う。
※	今回の規模とセッションの数なら4日は妥当だった。事前にシンポジウムごとにオンデマンド配信の有無の情報はありましたか？　あれば、聞きたいプログラムが重なったときの判断材料になると思う。
※	合同であれば4日間、単独年会であれば3日間。
※	6日間
※	従来の通りでよい。
※	規模を小さく(ダウンサイジング)して3日間にするのが望ましいと思います。
※	2日間
※	合同の場合は4日間は必要、単独の場合は3日間が妥当だと思います。

質問11. ConBio2017の開催期間に週末、祝日を含めるべきと思いますか （その他）	
回答者番号	その他記述
※	どちらでも。ただしホテル代やライフワークバランスから言っても、日曜・祝日は避けたい。すべて平日の方が最終日を待たずに帰る人は減るでしょう。
※	一長一短がある。平日だと講義を休講にする必要があるが、休講にすることが不可能（補講日程がとれない）場合もあるので、その点では土日が良い。最も良いのは、9月中旬にやってもらうこと（大学の講義は夏休みなので）。
※	どちらでも良い
※	日曜日、祝日を含まない方が良い、1or2、3以外
※	どちらでも良い。
※	前日が休日だと、移動のために勤務日を費やさなくて済むので快適である。
※	全日、平日開催が好ましい。休日前日は、宿泊費が高騰する。
※	土日祝と重なるのはどちらでもよいが、ルミナリエと重なるのは避けて欲しかった。
※	どちらでもよい
※	土日祝日いずれかは含んでいた方が良い。全て平日だと、通常の業務に支障をきたす可能性が懸念される。
※	最終日を週末にかぶせると、帰りの新幹線の混雑を気にして早めに会場を去らねばならなかったり、ホテル代が週末だけ高額になる上に満室になりやすい（予約しにくい）といったデメリットがある。できれば、全て平日が望ましい。
※	市民講座等は日祝日が良いが、一般講演は平日が良い。
※	特になし
※	特にこだわらない
※	大学の授業がないとき、日曜、休日または春夏冬休みに開催を希望。最近は休講が困難であるため。
※	土曜日，日曜日・祝日を含んだ方が良い思います．
※	週末、祝日を含んでも良いですが、恐らく、大学の先生方の参加が多いと思いますので、比較的自由が効く期間、例えば、大学の夏休み、秋休み、春休みの期間なども良いのではないかと考えております。
※	4日間の場合、移動を考えると火水木金の4日間が理想。最終日の午後遅い時間に当たってしまうともう1泊必要となり、家事労働から考えると厳しい。
※	核家族子持ちでは、休日子供の面倒を見られず配偶者に負担を強いることになるのが申し訳ない。土曜日込み4日間ならば、土曜日なし3日間のほうがよい。
※	どちらでも構いません
※	判断に迷います。土日が含まれれば仕事ははかどりますが、家事が圧迫されますし。。。
※	最終日が土曜日だと有難いです。4日間、参加するとかなり疲れます。
※	どちらでもよい
※	いずれでもよい
※	曜日はあまり関係ない。
※	最終日が今回のように土曜日であれば、最終日まで学会に留まろう（出張を続けよう）とする人が増える気がします。
※	こだわらなくても良いが、日曜日を含まなかったのは良い
※	どちらでも良いと思う。ホテルが取れないので、平日か休日かというより、他のイベントと重複しないことを優先した方がいいと思う。
※	最終日には人が激減すると予想される。この日に発表が当たるのは気の毒である。何か対策が必要。土曜日を最終日にするよりもすべて平日の方がまだいいのかもしれない。
※	自分は特に曜日による出張等の制約がないので、曜日にはこだわらない。
※	休前日が宿泊日程に入ると宿が高かったり、予約が取れなくなるので外した日程にしてほしい
※	曜日は気にしない
※	4日間の会期であれば土曜日を含んだ方が良い。
※	特になし
※	市民講演会などの催しを休日に行うべきであるし、私学からの参加は授業義務との関係で休日も日程に入れるべきである。
※	土日、祝日を含む日程でも構わない
※	私は臨床系にも属していますが、基本的に土日祝の方が参加しやすいです。ただ、逆に臨床系は土日に出張が入りすぎて、バッティングする可能性も高いです。
※	特に希望無し
※	市民公開講座を開催するのなら、それは週末になる（？）ので、それも考慮してはどうか。
※	出張という形で参加させていただいているので、個人的には開催日に土日を含めるにしても、どちらか1日のみにしてほしい。一方で、まだ研究をしていない学部生にも気軽に参加しやすくしたほうがいいと思うので、休日を1日含めることはいいことだと思う。あ、でも夏休み期間等に開催なら…？
※	I do not know.
※	関連ワークショップなどは土日でも良い。
※	授業の休講等を考えると休日を入れていただくほうがよいが、観光地であることを考えると世間一般にご迷惑をおかけする。
※	どちらでも構わない
※	学部学生は、平日は講義に出席する必要があるので、休みを含んだ方が良いと思います。
※	いずれであっても問題ない。
※	どちらでもかまわない
※	平日は講義があるので、講義のない土日を含んだ方がよい。

質問11. ConBio2017の開催期間に週末、祝日を含めるべきと思いますか （その他）	
回答者番号	その他記述
※	特にこだわりはございません。
※	大学教員をしています。平日の開催が悪いとは言いませんが、毎年、本大会の開催と学生実習が重なり、参加が困難となっています（実習も年間スケジュールとして決まっており、この時期をズラすことができません）。今回は実習まとめ役の先生に無理を言って代役を立て、学会に参加することができましたが、これが毎年となると正直厳しい状況です。上記理由から、学会開催の際は、土日を入れていただけると大変助かります。
※	どちらでも。
※	代休が全く取れないので、平日開催が理想的。週末、特に日曜日の開催は勘弁願いたい。
※	従来の通りでよい。
※	どちらでもよい。
※	開催地によると思いますが、宿泊施設や交通機関などが使いやすい開催時期に設定して欲しい。神戸のルミナリエの時期は以前から考慮すべき点となっていると思います。
※	今回のように、最終日が土曜というのはかなり良いと思います。最終日の最後まで会場にいたとしても翌日は1日ゆっくりできる、というのが主たる理由です。 私立大学の場合は土曜日も出勤しなければならないところがあるので、金曜が最終日だと、多くの人にメリットがあると思いますが、少数の人は大変だと思います。
※	土日を含むと、「取得したことにさせられる」代休を取得しなければならなくなる。
※	どちらでもよい

質問12. ConBio2017の適切と思う開催時期は？ （具体的な好ましい時期）

回答者番号	具体的な好ましい時期記述
※	頑張れば卒論生が発表できるようにするため、現在の11月末から12月上旬が良いと思います。この分野の研究は時間がかかるため、卒論あるいはM1で学会発表できたら、非常にモチベーションが上がるので良いでしょう。大学院進学率低下への対策です。
※	９月中旬だと大学の講義がないので参加しやすい。普通の大学では、学部の講義を休講にすることは非常に困難であることを認識して欲しい。
※	このままで良いが、北国等で行う場合は時期をもう少し早める等が必要
※	11月中旬から末でも良い
※	12月中旬（12月初旬は大学の推薦入試と重なるため、参加出来ない）
※	大学が長期休みの期間が望ましい。また、大学院生 (M2) の就職活動期間は避けるべき。
※	この際分子生物学会の12月上旬を見直してはどうか。11月中～下旬でもよい。
※	寒くも暑くもない時期で、10～11月ごろ。
※	10月あるいは11月頃が良い
※	11月中旬～下旬
※	８月下旬から９月中旬が良い。遅くなると科研費の準備等と重なってくる。科研費シーズンが始まる前に共同研究者を見つけるという目的を考えれば、少し早めの方が良い。出展企業にとっても、科研費申請につなげられるという意味では、科研費申請前の方が良いのではないか。
※	１１月末
※	神戸、横浜を続けるなら今のままでよい。北海道や沖縄などで開催が可能であるなら、場所によって良い季節にしたらいい。
※	大学の夏休み期間など(7月－８月)
※	夏季休業期間（8月）中、ゴールデンウィーク期間中などを検討してほしい。
※	10~11月
※	合同は12月上旬、生化学会単独は9月下旬で良いと思います。
※	10月下旬-11月中旬(科学研究費申請が終わって1-2週間後頃)
※	11月下旬から12月上旬でよい
※	10月頃
※	別々に行うならそれぞれの適当な時期に，合同で行うなら協議してきめる
※	神戸開催のときはルミナリエと被らないようにするべきでしょう。ホテルの予約が難しくなります。
※	宿泊費用が負担とならないよう旅行シーズを微妙にはずせば安くなるのではないか。上記の選択肢にこだわらなくても良いとおもう。
※	10月下旬
※	大学の夏休みの時期にしてみてはどうでしょうか？
※	時期的には12月の方が研究成果が出ており望ましい。ただ12月頃は風邪、インフルエンザの時期のため衛生的にはもう少し早め（9-11月？）が良い気がします。
※	９月上旬。大学の夏休み期間。
※	いつでもいい
※	11月
※	11月上旬
※	三月頃修士の学生が最後に発表する機会として時期的に良いと考えている
※	8月後半から9月前半
※	両学会の会員ではないのでわからない
※	二度とやらないで欲しい。
※	10～11月
※	夏休みに行う事も考えるべきで羽奈香。
※	最近は各自の学務も多く、何月でいいという時期は存在しない。
※	講義や入試，学位審査等と重ならない期間。
※	8月
※	まだ研究をしていない学部生が参加しやすい時期（夏休み等）もいいのでは？と思う。
※	アメリカ血液学会と重ならない時期
※	年末は忙しいので、それ以外の時期が良い。１２月は寒いので春か秋の開催を希望します。
※	12月でいいが、アメリカ細胞生物学会(ASCB）と重ならないようにして欲しい。かなりの日本人研究者が発表の機会を失っていると思います。
※	１２月のASCBと重ならないようにしてほしい。
※	11月中旬から下旬に開催していただければ、弊学における実習と重なることなく参加が可能となります。わがままを述べまして申し訳ありません。
※	６月や7月がいい。春は年度始めで、秋は研究費の申請や他の学会がある。
※	寒くない、暑くない、そういう時期が最適だと思います。そういう意味では、生化学会大会が9月というのは大変良いと思います。
※	12月上旬が基本で、会場が東日本の分子生物学会の場合は、もう少し早い時期でもよいと思います。それよりも遅くなると、寒さやインフルエンザの流行と重なるのでよくないと思います。
※	米国細胞生物学会（ASCB）や免疫学会等、国内外の主要学会と開催時期が近接しすぎているきらいがある。
※	個人的には、１１月下旬が望ましい。大学関係の行事（推薦入試）の都合で、１２月第１週は参加できない日がある。

質問13. オンデマンド配信について、参加者の立場からのご意見をお聞きかせください ＜複数回答可＞		
回答者番号	回答内容	記述内容
※	「オンデマンド配信」の期間は短すぎる/その他	配信期間2ヶ月は短すぎる。最低でも1年は確保してほしいが、アーカイブしていつでも観れる方が望ましい。
※	その他	お金がかかると思うので、最低限でよい。なくてもよい。シンポジウム・ワークショップ・一般発表をオンデマンドにすることには反対。
※	その他	学会後に時間をかけて見るにはオンデマンド配信は効率が悪いと思う。なので私はほとんどみておらず(1本の途中まで)、コストに見合わないのではないか？
※	その他	シンポジウム・ワークショップについては未発表データを含む場合が多いため、通常は写真などの撮影は禁止という暗黙の（明記されている場合も多いが）ルールである。一方で、今回のようにオンデマンド配信にされると、その動画は簡単に保存して拡散することができるので、期間や参加者限定にしてもその拡散を防止することは難しく、将来的に問題が出る可能性が考えられる。しかし、その対策が曖昧なまま今回のオンデマンド配信がスタートしたことに危険性を感じている。
※	「オンデマンド配信」の期間は短すぎる	3ヶ月は欲しい.
※	その他	オンデマンド配信のため、データを伏せた発表がいくつかあった。そうなる傾向があるなら再考したほうがよいのでは。
※	その他	プレナリは会場のキャパ不足が顕著、リアルタイム別室配信を望む。分野は遠いが高名な先生の講演は、現場では聞きたいと思うが、帰ってからわざわざ視聴しない。オンデマンド配信一般については視聴率などフィードバックを取り、必要経費を考慮しても会員に恩恵があるか検証いただきたい。
※	「オンデマンド配信」の期間は短すぎる	興味のある分野の全てを視聴するには半年程度の視聴期間を要する。
※	その他	会場に行く必要がなくなる。（機器展等の企業側のメリットが減る）
※	「オンデマンド配信」の期間は短すぎる/その他	「オンデマンド配信」の期間がどれくらいなのか知りませんが、非常によいことなので、今後一層の充実を期待します。
※	その他	オンデマンド配信により、発表者が最新のデータの公表を控える場面が数回みられた。そのためか、発表後数年経過したようなデータしかみられず、例年よりも新鮮さを感じることができなかった。
※	その他	オンディマンド配信するということで、未発表最新の発表をやめてしまった発表者もおり、あまり得策でない。
※	その他	重複のために聞けなかった発表を聞くのには良いが、費用対効果があるかどうかは事後検討が必要。
※	「オンデマンド配信」の期間は短すぎる	1年以上2年まで。
※	「オンデマンド配信」の期間は短すぎる	半年程度を個人的に希望するが、せめて3ヶ月配信して欲しい。
※	その他	今は改善されているのかもしれないが、使用できないブラウザがあるので困った。
※	その他	論文発表済みの内容しかはなせなくなるので、内容的に新規性がなくなる
※	その他	プレナリーレクチャーは教育的な価値もあるし、非会員に見せると分生の宣伝にもなると思うので広く一般に公開するのがよいと思います。参加者の立場からはシンポジウム・ワークショップのオンデマンド配信はメリットがあると思います（まだ見ていませんが）。
※	その他	会場に入りきれない場合の対策として、ロビーや他の会場でビデオ配信をみられるようにしてほしい。
※	その他	プレナリーレクチャーのオンデマンド配信は非常にいいと思うが、その他の発表については、オンデマンドとして残ってしまったり、参加者以外の人が見る可能性がある（いくらパスワードを設定しても、本当に一人で見ているという保証はない）と、発表内容に制限をかけてしまう可能性も考えられるのでデメリットもかなりあると思う。特に、一般口頭発表のオンデマンド配信はやめた方がいいと思う（発表希望者が減るのでは？）。その一方で、今回のようなプログラム編成だと聞きたくても聞くことができない発表が多数出てくるので、そういう場合にはありがたい。
※	「オンデマンド配信」の期間は長すぎる	1-2 week
※	その他	双方向の議論に参加せず、一方的に聞くだけというスタイルは、学会に馴染まないと思う。
※	「オンデマンド配信」の期間は短すぎる/その他	1年以内
※	「オンデマンド配信」の期間は短すぎる	次回の学会まで1年間あるので、せめて半年間は配信してほしい。
※	その他	プレナリーレクチャーのオンデマンド配信を、ぜひとも学生教育に利用したい。日本の貴重な財産だと思う。

質問13. オンデマンド配信について、参加者の立場からのご意見をお聞きかせください ＜複数回答可＞		
回答者番号	回答内容	記述内容
※	その他	学会の年会・大会での演題をオンデマンド配信とすることには反対です。学会の学術活動を活発にするためには、オンサイトで活発な議論をすることに意味があり、そちらに費用と労力を注ぎ込むべきと考えます。プレナリーレクチャーのオンデマンド配信のようなことをするのであれば、各学会の発行雑誌をオンライン配信にして、その中に動画を入れれば良い話です。
※	「オンデマンド配信」の期間は短すぎる	オンデマンド配信の期間は、学会員ならば半永久的に視聴できるべき。
※	「オンデマンド配信」の期間は短すぎる	オンデマンド配信の期間は最低半年間、できれば次の大会まであると良い。
※	その他	参加できない方のためのオンデマンド配信というアイデアはいいと思いますが、その費用捻出による犠牲（海外参加者のと公費補助、学部生からの参加費徴収）が大きすぎます。個人的には学会は直接参加して、演者とわいわい話しながら新しいアイデアを生み出す場所だと思いますので、オンデマンドのメリットは感じませんし、視聴もしません。
※	その他	事後登録した者はすべてオンラインでも情報を入力することを求められている訳なのでその時点で学会の会員情報と照会がされてしかるべきで、参加費を納めた時点でパスワードが発行されることが望ましい。今回の場合は残念ながら事後登録ではオンライン決済ができずに当日会場で参加費を納めることになっていたのですが、せめてその時点でフルアクセスできる様にすべきだと思う。さらに1ヶ月待たされることには納得できない。興味を失ってしまうと思う。
※	「オンデマンド配信」の期間は短すぎる	半永久的にしてほしい
※	その他	プレナリーはオンデマンド配信があると助かるが、シンポジウム・ワークショップはオンデマンド配信をしなくてもよい。今回はほとんどがオンデマンド配信があるため、わざわざ会場まで行く気になれなくなってしまった。（ほかの参加者からも同様のコメントを聞いた）
※	その他	参加者としてはオンデマンド配信があるのは嬉しいが、発表者の声としては、配信されるため未公開データを発表したくないとの声を多数耳にした。その辺のバランスが非常に難しいように思う。自分が発表者だったら、論文発表前のデータはオンデマンドで発信したくない。
※	「オンデマンド配信」の期間は短すぎる	1年間閲覧した名前が発表者に伝わるのは、趣旨は理解できるが、手の内を明かすようでやめたほうが良い。
※	その他	オンデマンド配信を気にされる方からはあまりプレリミナリーなことを聞けなかった
※	「オンデマンド配信」の期間は短すぎる	12-2月は学期末の試験と入試に追われ慌ただしい。3～5月末まで（最長半年間）公開して頂きたい。
※	「オンデマンド配信」の期間は長すぎる	オンデマンド配信は，1週間程度が良いと思われる
※	「オンデマンド配信」の期間は長すぎる/その他	会期中のみ。せっかく参加しているので、オンデマンドではなく、直接参加できるようなスケジュールにする努力をすべきである。オンデマンドは、どのような制約をかけても、不特定多数の視聴を阻害できないので、unpublished dataの発表を逡巡させるものであると思います。
※	その他	その存在自体知らなかった
※	「オンデマンド配信」の期間は短すぎる	約1年間
※	「オンデマンド配信」の期間は短すぎる	可能ならば、次回の年会の開催日まで視聴できると良い。
※	「オンデマンド配信」の期間は短すぎる	半年程度が適当かと思います。二ヶ月は短すぎると思います。
※	その他	仕事場のインターネット環境が悪く、動画がうまく見られないかもしれない。
※	「オンデマンド配信」の期間は短すぎる/その他	非常に学習効果が高く、盗用などの倫理ルール啓蒙と合わせることで非常にフェアな研究評価システムの雛形となる気がする。発表者の視聴率はその研究領域、研究者の注目度や貢献度を反映すると考えらえるので、活用すべき指標であると思う。参加費以上の満足度は確実に得られる。
※	「オンデマンド配信」の期間は短すぎる/その他	1つのセッションに参加するために、他のほとんどすべてのセッションを見られないため、オンデマンド配信はその救済策として有効だと思われます。特に、プレナリーレクチャーの配信はとても有意義だと思われます。オンデマンド配信期間は6～9ヶ月くらいあるとありがたいです。
※	その他	どうせ見るわけがない
※	その他	オンデマンド配信があるので、preliminaryなデータを発表しないケースが複数あったので、オンデマンド配信はやめたほうが良いと思います。
※	その他	不参加
※	その他	参加していない
※	その他	オンデマンドにより、プレリミナリーデータや未発表データの発表に対して後ろ向きとなり、活発な議論を妨げる要因になってしまうため。

質問13. オンデマンド配信について、参加者の立場からのご意見をお聞きかせください ＜複数回答可＞		
回答者番号	回答内容	記述内容
※	「オンデマンド配信」の期間は短すぎる	1年
※	その他	聞き逃した部分を再度見る、聞くことができるのでとても良いと思う
※	「オンデマンド配信」の期間は短すぎる	次大会開催までの約1年間がよい。
※	その他	口頭発表を記録して配信するのはやめた方がよろしい。
※	その他	個人的には、期間限定でオンデマンド配信で聞くのであれば、学会として著名な先生を呼ぶ理由が感じられない。多くの著名な先生と直接の質問・交流ができる事こそが学会のメリットだと思います。講義やサマースクールとしてのオンデマンド配信という教育目的のものであれば、逆に意味はあると思います。
※	「オンデマンド配信」の期間は短すぎる	1年間くらいが適当と思います。
※	その他	プレナリーの半永久的公開には賛成。シンポジウム・ワークショップについては、オンデマンド配信をすることにより最新データを発表しないケースも多かったという印象を受けた。わざわざ学会に参加するのは最新情報を知りたいからであって、オンデマンド配信をすることで最新データの議論に制限がかかるようでは本末転倒である。プレナリー以外についてはオンデマンド配信をする必要はないように思う。
※	その他	オンデマンド配信が前提になるとunpublished dataは出さない講演者が増え、学術的な魅力は少なくなる。口演はその場限りがベストではないでしょうか。
※	その他	このために未発表のデータを発表に含めない演者がでるので、特別講演のような全体のためになる発表以外はオンデマンドにすべきではない。
※	その他	どのようにパスロックをかけても、何千人もの参加者がいれば、残念なことではあるが非参加者へのパスの流出は避けられないと考えたので、オンデマンド配信は否とした。 また別の考え方として、その会場に来訪してくれた参加者と、そうでない人のどちらも発表内容にアクセスできるようになれば、WSを開催する意義そのものを揺るがすのではないか。オンデマンドに費やす予算があれば、会場に足を運んだ参加者が発表スライドを見やすくするのに液晶モニターを用意するなどしてもよかったのでは。スクリーンと部屋の大きさのバランスについては、会場間の差が開き過ぎていた。
※	その他	ごく一部の例だろうが、●●先生のプレナリーレクチャーでは、1時間くらい前に会場にいっても座ることはほぼ不可能だった。このようなことが起こりうるからにはオンデマンド配信は絶対に維持してほしい。配信期間に関してはこだわらない。
※	その他	オンデマンド配信は止めたら良い。プログラムを工夫して必要な発表を聞けるようにするべき。
※	「オンデマンド配信」の期間は短すぎる	6ヶ月
※	その他	オンデマンド、家で中学生の子供と一緒にテレビに映してみました。
※	「オンデマンド配信」の期間は長すぎる/その他	一年
※	その他	不明（不参加のため）
※	その他	不明（不参加のため）
※	その他	オンデマンド配信は不要。もっと別のことに費用を使ってほしい。
※	「オンデマンド配信」の期間は短すぎる	1年
※	その他	オンデマンド配信はやめてほしい。発表者としては、その場の聴衆に合わせて発表しているので、不特定多数の人がいることを考えると、発表の内容やスタイルも変わってくる。
※	「オンデマンド配信」の期間は短すぎる/その他	6か月程度の公開が望ましい。
※	「オンデマンド配信」の期間は短すぎる	次の年会までの1年間、配信してほしい
※	「オンデマンド配信」の期間は短すぎる	オンデマンド配信は1年間くらいあっても良いのではないか。
※	その他	プログラム編成上見ることができなかった発表をチェックできるのは有り難い。一方で、一同で集まって議論するという口頭発表あるいは学会の存在意義がうすれるかもしれない。
※	その他	知らなかった
※	その他	オンデマンド配信により、気になる発表を再確認することが可能になる一方で、論文未発表データを中心により一層データを隠すようになり、論文の焼き直しのような発表が増えると思われる。（実際、今回のシンポジウムなどにおいて、撮影があるために発表データに関し、詳細は隠しているという発言を聞いた）。また、一般発表においては、論文未発表データを多分に含む発表（特に、学生会員による発表）も多く存在することから、学生を含めた学会発表を促進するという観点からは、一般発表にオンデマンド配信を適用するのは避けるべきであり、時期尚早であると考える。

質問13. オンデマンド配信について、参加者の立場からのご意見をお聞きかせください ＜複数回答可＞		
回答者番号	回答内容	記述内容
※	「オンデマンド配信」の期間は短すぎる	1年間配信してほしい
※	その他	選択肢の3と4の違いが分かりません。
※	「オンデマンド配信」の期間は短すぎる	6ヶ月
※	その他	参加できなかったので、わからない。
※	その他	オンデマンドが見られない。
※	その他	協賛学会の会員でない参加者にも、配信されたのでしょうか。
※	「オンデマンド配信」の期間は短すぎる	1年間
※	「オンデマンド配信」の期間は短すぎる	無期限
※	その他	今回の通りで良いと思う。
※	その他	同時進行してしまう企画があまりにも多すぎるので、オンデマンドがあれば、後で他の部屋の企画も確認できるため、とても望ましい。今回の運営上の工夫の中で、もっとも優れていてよかった点だと思う。
※	その他	参加費を払った恩恵を感じるために、オンデマンド配信は参加者のみに限定した方が良いと思う。しかし、期間限定にはしてほしくない。
※	「オンデマンド配信」の期間は短すぎる	１年間
※	「オンデマンド配信」の期間は短すぎる	4ヶ月くらい
※	その他	会場にいて聞くことが基本というか大前提だと思っています。 だから、オンデマンド配信は今後は推進しなくて良いと思います。オンデマンド配信を捨てて、一期一会というか、それなりの緊張感を持った一発勝負、つまり会場にいて生で接する、それこそが参加する醍醐味としか思えません。
※	その他	プレナリーレクチャーは参加者以外にも広く公開できるように検討していただきたい。
※	「オンデマンド配信」の期間は短すぎる/その他	7について。３月一杯か、GWまでなど。
※	その他	オンデマンドは不必要です。
※	「オンデマンド配信」の期間は短すぎる	次回開催の前まで
※	「オンデマンド配信」の期間は短すぎる/その他	オンデマンド配信は非常に有用である。配信期間は3ヶ月にしてほしい
※	「オンデマンド配信」の期間は短すぎる/その他	１年くらいは最低でもほしい（内科学会では１年くらい）。とくに年末年始、年度末に近くなると、大学の業務等で研究に割ける時間が少なくなり、オンデマンドを見たくても時間が無い。ほとんどの会場で、満席になり、立ち見も困難であった。オンデマンドがないと、聞きたい口頭発表が十分聞けない。
※	その他	オンデマンド配信に頼らないプログラムにすべき。

質問14. オンデマンド配信について、発表者の立場からのご意見をお聞きかせください ＜複数回答可＞ （その他）	
回答者番号	その他記述
※	未発表データの提示はリスクがあり、どうしても論文発表済の古い仕事の話になってしまい、気持ち的に盛り上がらない。
※	発表していない。
※	研究の進展に伴い、学会発表した内容や仮説があとで変わることはしばしばある。学会発表はあくまでも「つかのま」のものであるほうが好ましい。そうでないと、非常に保守的な発表しかしなくなるであろう。
※	メリットは大きいが、広く公開したくない情報の発表を躊躇する講演者もいると思うので、最新情報に基づく深い議論ができなくなる可能性があると思う
※	私が主催したシンポジウムでは講演者の意向に従ったところ、6名中5名がオンデマンドを選択した。1名は未発表データの公開を好まず非選択であった。私自身はオンデマンドで視聴した方も反応を聞いておらずメリットを判断できなかった。
※	どこからどこまでオンデマンド配信されるのかわからず、質疑応答も言いたいことが言えなかった。発表者目線が全くなく、やめたほうが良い。
※	オンデマンド配信はとてもよいが、未発表データを発表できないのは残念。
※	該当せず
※	発表していないので該当しない。
※	多くのセッションが同時進行する状況ではメリットがあると考える。
※	発表者ではないので特にない。
※	もちろん、多くの聴衆に見てもらえるというメリットはあるが、予想以外の録画動画の拡散というリスクが大きすぎる。
※	未発表データが含まれるため、シンポジウム・ワークショップにおいても、一部スライドを非表示に出来るようにして欲しい。
※	発表していないのでわからない
※	ワークショップの発表は論文未掲載データや作業仮説が含まれるため、不特定多数が閲覧できるようにすべきではない。
※	ケースバイケース。
※	発表者ではないので、回答できませんでした。
※	・明らかに同じ領域のテーマが同じ時間帯に設定され、かなり残念であった。結局、オンデマンド配信でみることとなった。オンデマンドありきでのプログラム設定であれば、わざわざ会場に赴く意味がない。
※	メリット：より多くの人に聞いてもらうチャンスがある。デメリット：スライドやデータの自己管理不能なレベルでの露出。
※	わかりません。
※	発表者ではない。
※	私は閲覧したいとは思わないが、会期直後は閲覧する気が起きる人がいるかもしれない。配信期間2ヶ月は長い。
※	メリットの有無以前に、発表する側からすると、「その場限りのもの」にして欲しいというのが率直なところです。論文になっていない重要な情報などさらに言いにくくなると思いますし、そもそも自分の話す姿を何度も見られたくもありません。やめて欲しいです。
※	論文投稿前のデータを使いにくい
※	配信の可否を選択できるので、良いことだと思う。
※	配信するかどうかは、個々の発表者の意向が尊重されるべき。
※	発表していないので不明
※	競合的な分野で、たとえば構造解析など、電子データそのものに価値がある場合は、オンデマンド配信されると、最新のデータは発表しにくい。発表者の立場からすると、オンデマンドはやめてほしい。
※	分からない
※	フルオープンになるならメリットが大きいが、限定公開ならあまりメリットがない
※	オンデマンド配信使わなかったので分かりません。
※	どちらも考えられる。オンデマンド配信を気にすると発表できるデータに制限がかかる一方、研究の宣伝にもつながりうる。
※	オンディマンドでも聞けるからと帰る人もかなりいた
※	多くの方に聴いていただけるのはメリットだが、言い間違いや誤りなども記録に残ってしまうのはデメリットである。
※	画像として残るため、最新の内容は盛り込まないなど、内容に影響が出る。
※	配信ありのセッションでの発表でしたので、未発表データは全く加えませんでした。WS提案の際に配信の有無を予め明示するようですが、今後もし配信有が採択に有利になるようでしたら、今後WSを提案する際に躊躇すると思います。
※	よくわかりません。
※	プレナリーレクチャーのオンデマンドは良いと思いますが、ワークショップのオンデマンドは不要では？　会場に入れずに講演を聞くことができないことへの対策としては、会場の前にディスプレイをおいてスライドの上映をすればことたりるのではないでしょうか。
※	使用している素材の著作権の問題や未発表データの取り扱いなど、事前に基準を示した方が良いのではないか？実際上、オンデマンドのシンポジウムでは未発表データは話しにくい。ただし、今回のConBioのように、様々な学会の参加者が合同で開催するのだから、話す内容も最新データよりもレビュー的な内容で良いのだ、と割り切れば、メリットはあると思う。
※	情報公開の観点から、未公開の新知見を発表できない。

質問14. オンデマンド配信について、発表者の立場からのご意見をお聞きかせください ＜複数回答可＞ （その他）	
回答者番号	その他記述
※	重なって聞けなかった発表を後から聞けるのは大変良かった。
※	メリットとデメリットがあり、今後議論されるべきである。しかし、新しい取り組みとして一定の評価を受けて良いと思う。
※	オンデマンド配信されると論文未発表データを発表できないので、希望者のみで行うのがよい
※	発表者ではなかった。
※	オンデマンド配信があると未発表の研究内容の学会での発表を危惧するようになり、学会発表の本意がそがれ、デメリットが大きすぎる。オンデマンド配信は不適切。
※	未発表データを競合研究者に知られるリスクから、最新データを発表できない恐れがある。一方で、オンデマンド配信を拒否するのに理由が必要で、気軽には拒否できないことになっていた。初めての試みで、なるべく多くの演題でオンデマンド配信をしたい、主催者側の意図があるのではないかと感じられた。
※	オンデマンド配信がある場合は最新の未発表データの発表に慎重になるかもしれない。
※	口演では特許申請前の成果も含めることがあるので、オンデマンド配信は、講演者の希望で配信しない選択もあるようにしてほしい。
※	発表の際に、すでに分かっていることしか講演しなくなる。
※	不参加につき該当選択肢なし
※	発表者ではなかったので、未回答。
※	メリットはあるが、デメリットの方が大きい。
※	これまでは聴講者数をおよそ把握できたが、オンデマンド配信になると上限が不確定になる。情報が拡散しすぎることを懸念し論文未発表データを差し控える研究者もいるのでは？
※	未発表データの議論を妨げるもので、避けた方が良い
※	発表者ではありませんが、メリットがあると考えます。
※	ただの研究紹介なら学会の枠組みは不要なので、オンデマンド配信に本質的な意義はないだろう。研究紹介の手っ取り早いプラットホームとしては有効かもしれない。しかし学会ではやはり双方向の議論が重要なので、あまりそそられない。
※	使っていないのでわからない
※	判断が難しいです
※	シンポジウム企画者の意向に沿うべきと思います。シンポジウム・ワークショップのオンデマンド配信は、すべてでなくてもよいと思います。
※	開示できるデータ(スライド)等を選択できるとよい(音声のみ配信可など選択できるとよいのではないでしょうか？)
※	出すデータを絞ったりというデメリットはあります。一方、後に残ると思うと、いつになくきちんと発表練習をするので、これは良かった点。
※	すべての内容を「オンデマンド配信」するとなると、論文前のデータを言う人が少なくなると危惧される。
※	不明.
※	特にありません。
※	論文未発表データをオンデマンド配信で公開することには抵抗があります。
※	プレナリートークはオンデマンド配信のために速報性よりヒストリーを語って頂くので問題ないかもしれないが、シンポジウムまでオンデマンド配信が可能になると演者の方が最新データの発表を躊躇されるかもしれないのでデメリットも大きいと思う。
※	見ていないので分からない。
※	自分の発表したものではオンデマンドのものはありませんでした。
※	オンデマンドに発表なし
※	発表者でないので、判らない。
※	オンデマンド対象演題の発表者ではなかった。
※	発表してないのでわからないが、論文未公開の発表はしにくくなるのではと思う。
※	発表していない。
※	期間が長いと，未発表成果の露出時間が長くなることに対して身構えてしまうので，発表をすでにpublishした「過去の」内容に絞ることになるため，発表の活性が下がり，かなり良くない.
※	自分自身のメリットはあまりあるとは言えない。むしろ、間違ったことを言ってしまっていたりした場合、取り返しがつかない。
※	発表者ではないので意見は答える立場にない
※	ウエブ上で繰り返し見ることができれば、未発表の現在進行中の結果などは発表しづらくなってしまいます。
※	発表していない
※	論文掲載済みのデータを出す場合は宣伝となってメリットになるが、未掲載データを出せないという意味ではデメリットになる。逆を返せば、オンデマンド配信を行うと、会場に来てくれる聴衆は論文掲載済みのデータしか見られないということでデメリットになると思う。
※	発表していない
※	私は発表者じゃないんですが
※	発表者ではないが、時間等の都合で聞きに来られなかった人へも情報の発信が可能なので、オンデマンド配信にはメリットがあると思う。
※	見られなかったセッションの発表を後で閲覧できるのはありがたいことですが、それに伴って、未発表データへの言及は控えることになると思われます。 代わりとして例えば、未発表データを話し合える機会としてポスター発表を利用するという流れを作るのであればオンデマンド配信のデメリットを減らせるのではないかと思われます。

質問14. オンデマンド配信について、発表者の立場からのご意見をお聞きかせください ＜複数回答可＞ （その他）	
回答者番号	その他記述
※	オンデマンド配信を強要されたため、新しいデータを削って発表した。同様の対応をした研究者がきっと多いと予想している。また、新データを出したかったらlate-breaking abstractを登録してポスター発表も同時にしろという、無茶な連絡を受けたが、この会のためにそんなことをする人がいるのだろうか？
※	オンデマンド配信になっているとpreliminaryなデータが発表しにくいので、やめてほしい。
※	不参加
※	未発表データを出しづらい
※	発表者ではない。
※	参加していない
※	規約が守られるはずがないので、参加もしていない不特定多数に配信されることは間違いなく、情報漏洩その他に気を使って喋りたいことが喋れなくなる。
※	該当しない。
※	発表者自身は今後の宣伝のために保存できるようにすべき
※	見ている人からフィードバックがあれば良いのでは。また、スピーカー自身のホームページでも、リンクの埋め込み等で公開できる特典があれば、協力する人も増えると思います。
※	配信されるとなると未発表データやアイデアを含めにくい。
※	未発表の具体的なデータも使って発信するようにしているが，共同研究者への配慮もあり，今回ためらいが生じた
※	メリットの有無は分からない
※	オンデマンド配信をすることにより、最新データやプレリミナリーなデータの発表に慎重になることは否めない。学会の本来の目的は最新データについて直接議論することだと思うので、今後継続することには反対。
※	メリットはあるが、今後どのようにしていくかしっかりと議論していく必要があると思います。
※	自身の発表を広く公開するメリットがある半面、学会発表においては（論文）未発表のデータを含む場合もあるので、オンデマンド配信はデリケートな問題を含んでいる。
※	大勢の人間が顔を合わせて、論文未発表データも含めて議論をすることこそが、年会を開催する意義だと信じている。オンデマンド配信は、革新的な内容に触れる論文未発表データに基づく十分な議論の実現を難しくする。また、もしオンデマンド配信を意識するあまりに、核心に触れる分子名、方法、理論、アイテ?アなと?を伏せた発表がなされるようであれば、年会そのものの意義を失墜させてしまう。
※	発表していない。
※	オンデマンド配信は止めたら良い。参加者のモラルを信用していない。
※	自分がオンデマンド配信対象の発表者ではないので、メリットの有無はわからない。
※	使っていないので、判断できず。
※	ある程度のメリットを感じるが未発表の最新情報の発信をためらう研究者もおり、会議において最新情報を得辛くなるというデメリットもかんじます。
※	動画の違法的流出がおこらないか気になる。
※	未発表データは出せない、という点が問題です。
※	オンデマンド配信されることにより、未発表データの情報漏洩が起こりうるため、発表者は未発表データの公表を差し控えるようになると思う。また、参加者もオンデマンド配信を見れば良いと会場に足を運ばなくなる可能性もある。したがって、オンデマンド配信は発表者にとってデメリットだと思う。
※	希望するしないを選べるのでいいと思います。
※	不明（不参加のため）
※	不明（不参加のため）
※	オンデマンド配信による発表をすることで、発表者に果たしてメリットがあるのか？研究費が増えるとか、研究室へ来たい学生数が増えるなどのメリットがあれば有り難いが。
※	同時に多数のシンポジウム・ワークショップが開催される場合、後からでも発表をみてもらえるのはよい。ただし、オンデマンド配信は画像をスクリーンショットで保存することが可能であるため、未発表データを出すことに対しては消極的になる。ConBioのように異分野も含めて広い生命科学を知る学会、小規模で未発表データを議論する研究会、それぞれの英語版と日本語版など、学会が棲み分けてくれるとありがたい。
※	発表内容を広く喧伝するという意味では効果的であるが、未発表データは出しにくくなるなど発表内容は後退する可能性が高い。
※	知らなかった
※	オンデマンドを断った先生も少なくないようで、同じワークショップでも断られる先生もいて、後でデータを見られることを考えると、公平性を持たせた方がいいのではないか。配信するなら全て義務化するようにした方がいいのでは？
※	既にPublishしたデータで発表するならアピールとしても良いが、未発表データを出せなくなるのでは。
※	分からない。
※	発表していない
※	参加できなかったので、わからない。
※	参加者のみの期間限定特典とするべき
※	発表者自身にとっては、メリットよりも負担の方が大きいと思われる。
※	未発表データの問題があるので微妙。
※	承諾した発表者のみが配信されるのであれば、メリットがある。
※	発表者ではない
※	オンデマンド配信はしないほうがよい。一発勝負で聞くべき。 開催側も、一発勝負で聞くことを前提に企画するべき。

質問14. オンデマンド配信について、発表者の立場からのご意見をお聞きかせください ＜複数回答可＞ （その他）	
回答者番号	その他記述
※	自分が発表する時間帯で他に聞きたい演題がある場合、メリットがあると思います。
※	オンデマンドを希望しませんでしたが、ワークショップ内で統一する必要があるとのことから、配信になりました。意に沿わない配信が行われるのは納得いきません。
※	効果の有無はわからない
※	発表者ではないのでノーコメントとさせていただきます

質問15. ConBio2017における以下の取り組みについて、良かったと思うもの ＜複数回答可＞ （その他）	
回答者番号	その他記述
※	参加していないので、わからない。
※	今回は時間制約上、自身がかかわるWS以外参加できなかったのでコメントができない
※	高校生の発表は、最終日の午後ではなくもっと人が多いときに行って欲しい。
※	高校生の口頭発表は、もっと広い場所で行うべきであると感じた。高校生が全員、座席に着けていなかった。私もパブリックビューでしか発表を聴くことができなかった。学会という場で不適切かもしれないが、所属機関への意欲ある学生をリクルートするためにも、引率の先生とも話しがしたかった。多数の研究意欲のない大学院生の発表よりも優れていた。
※	参加していないので不明。
※	バーコードは名刺なしで情報を提供できる方がよい。それは参加者にどの程度情報を提供するかきめさせるとよいと思う。
※	不参加のため不明
※	バーコードリーダー導入はよいが、勝手にメールを送付するのは止めてほしい
※	参加していない
※	大学側からの参加者が激減すると思うので、高校生発表を土曜日にしちゃうとあまり意味がないのでは？一般参加者からあれだけのお金を取っているのに、ランチョンはどちらかというと学生向けだらけ、その上すぐになくなる様な数しかないそれならそこまで金額差をつける必要はないでしょう
※	企業展示見学時間の設定はやや短いように思われました。バーコードリーダーはとても便利でした。
※	例年と比べて今回は本当に楽しくなかった
※	曜日の関係で仕方がなかったが、「高校生発表」が最終日に開催されたために参加することができなかったのが残念であった。
※	分子生物学会の海外若手研究者招聘企画がなかったのが大変残念. 海外にいるポスドクにとって一時帰国する（就職活動する）とても良いきっかけとなる. 学会にとっても海外で研究をしている研究者の情報が得られるのでメリットとなる.
※	ランチョンセミナーが数セッションしか開催できないのであれば、通常のセッションを並行して開催しても構わないのでは。ランチョンセミナーからあぶれた人たちの行き場がなくて困った。
※	上記の工夫に加えて、午後の口頭発表の時間帯を遅らせ、午後の早い時間帯にポスターセッションを開催したのは、成功ではないか。今後もこのフォーマットを踏襲してよいと思う。
※	FAOBMB Programsは非常によい取り組みだが、もっとはやい時間帯に行うべきだと思う。
※	不明（不参加のため）
※	参加人数と比較して、ランチョンセミナーが少なかったが、それだけにランチョンセミナーを開催してくださる企業にメリットを感じていただけるような取り組みが多かったのは非常によかった。
※	多くの学会と協賛したこと。ただ協賛学会が、ConBio2017について大々的に宣伝したかは疑問が残ります。少なくとも会期が近い某学会は、学会ウエブサイトに少々掲載されていただけで、それを見た某学会員は殆どいなかったのではないかと思います。
※	参加できなかったので、わからない。
※	ランチョンセミナーの数が少ない。
※	バーコードの導入はよかったが、かなりの企業に情報が十分に浸透していなかった。
※	そもそも、名刺の作成が自費の人が多いと思います。一枚100円くらいするものを無神経にくれと要求すること自体が理不尽なことだと思います。そもそも、名刺を持っていない人もかなりいるのではないでしょうか。 企業の人などは名刺が会社から支給されているのでしょうか、アカデミアでは必ずしもそうではありません。 名刺を自腹で作成している比率、名刺を持っていない比率は調査して把握しておくべきだと思います。また、出展者が参加者に名刺を要求することは禁止すべきだと思います。
※	高校生発表は会場の中心に持ってきたほうがいい。
※	バーコードリーダーは企業によっては使用していなかった。いちいち名前などを書くのは時間がかかるので、便利ではあったが、どのような情報が企業に提供されているかが不明なため、不安はある。10年くらい前に、本学会でバーコードをランチョンセミナー入場時にチェックすることがあったが、PCに自宅の住所や電話番号まで表示されたのが見え驚いた。以後自宅へダイレクトメールが来るようになり、他に心当たりが無いため、学会での過去のバーコードからではないかと疑っている。今回そのようなことがなければ良いのですが。

質問16-2. シンポジウムとプレナリーレクチャーについて ＜複数回答可＞ （テーマが偏っている）	
回答者番号	テーマが偏っている記述
※	テーマは適切と思いましたが、今回は神戸開催だったせいか、関西の先生方のご発表が多いように感じました。
※	免疫系（したがって医学系）のプレナリーレクチャーが多かったように思います。
※	プレナリーレクチャーのうち１－２名はもう少し中堅の研究者がしてもよかった。
※	毎年同様の演者によるものが多すぎる。
※	偏りはあったが、偏っていても構わない。
※	免疫関係が多すぎた
※	プレナリーレクチャーが、すでに「著名な」シニアな研究者に限られていることに問題を感じた。それぞれのレクチャーは貴重なものではある。しかし、アカデミアの現状と今後を考えた時、30-40代の「旬な」研究者に大きなチャンスを与える方がより意義深かったのではないだろうか。特に今回のような合同学会の場合、各学会の若きスターを競演させることもできたであろう。
※	v
※	プレナリーレクチャーはいいが、シンポジウムの設定はよくわからない感じだった。
※	毎年、似たような内容のセッションが散見される。ほぼ共同研究者どうしでシンポジウムを構成している例が見られた。
※	免疫関係が少し多かったと思います。
※	無名な人から大胆に選んでもよいと思う
※	全体的には網羅してるが、日ごとの偏りが激しい。高次機能と物質で開催日を分けるのでなく混ぜて欲しい
※	plenaryについて：癌と免疫は分子生物学の初期からテーマとして扱われてきたから、という説明なのかもしれないが、偏りすぎ。
※	テーマが広すぎて焦点がない。
※	植物関係もほしい
※	植物関係もほしい
※	外国人演者が皆無であったことは残念でした。もっと国際化を意識した学会にすべきと思います。今回は例年よりもむしろ後退したかのような印象さえ受けました。
※	免疫学のテーマが多かったように思います。
※	プレナリーレクチャーは免疫に偏っていたと思う。
※	もう少し厳選しても良いと思う。
※	プラナリーレクチュア-はいろいろあってよかったが、人気の会場では、どう見ても会場収容人数が少ない。
※	●●先生と●●先生は、既にお馴染みであり、食傷気味である。
※	今回は複数の学会の合同大会という特別な機会だったので、ノーベル賞受賞者などのプレナリーレクチャーがあったことは良かった。単独開催の場合はプレナリーレクチャーの必要性は感じない。シンポジウムのテーマは適切だったと思うが、類似のテーマのシンポジウム・ワークショップが同時並行で開催されていたケースも多く、プログラムの編成については改善の余地があったと感じる。
※	日本人中心なので、日本で行われている研究が中心になり、世界に目を広げれば偏ってしまう。
※	Conbioにしたことがほとんど反映されいていないと思った。
※	プレナリーレクチャーをこれだけの数行うのであれば、植物の研究者も加えてよかった。
※	どこかで聞いた様な、同じ様な話が多い。大会のテーマなどを決めて、厳選したほうが良いと思う。
※	免疫学分野にテーマが偏っていた。ConBioなのだから、幅広い分野や境界領域でのテーマを選定してほしかった。
※	プレナリーレクチャーが免疫学寄りだった印象。
※	プレナリーレクチャーは、資金的に可能であれば海外からの先生を増やしてほしい。
※	テーマには偏りを感じたが、学会参加者の興味が偏っているため、テーマは偏っていても当然であると考える。
※	シンポジウムは多様なテーマが設定されて非常によおかったと思う。プレナリーレクチャーは、やや免疫関連に偏っていた感じを受けた。
※	プレナリーレクチャーは免疫学に大きく偏っていたが、分野違いの身としては大変勉強になったので良かったと思う。●●先生にはお引き受け頂けなかったのか？
※	創薬、医科学に偏りすぎでいる。
※	医学系への偏りがあると思う
※	適切か、偏っているか、と言われれば偏ってる。
※	興味深いものもあったが、同じようなテーマが複数あり、また開催が同時であるなど、参加しにくかった。
※	トップダウン（企画物）が多すぎる。よってテーマが偏る。

質問16-8. シンポジウムとプレナリーレクチャーについて ＜複数回答可＞ （その他）	
回答者番号	その他記述
	【当該設問の結果について】 委託先のアンケートシステムの問題により正常に回答が取得できていないことが確認されたため、非公開とさせて頂きます。ご了承ください。

質問17. ワークショップについて ＜複数回答可＞ （その他）

回答者番号	その他記述
	【当該設問の結果について】 委託先のアンケートシステムの問題により正常に回答が取得できていないことが確認されたため、非公開とさせて頂きます。ご了承ください。

質問18. 一般演題について ＜複数回答可＞ （その他）

回答者番号	その他記述
※	協賛団体の参加があっても、例年以上に興味深いテーマが増えたとは思えなかった
※	ポスターの後の口頭発表のスケジュールはよくないと思う。
※	今回は時間制約上、自身がかかわるWS以外参加できなかったのでコメントができない
※	RNA関連のセッションがシンポジウム、ワークショップ、一般口頭発表と、同日の同時間に3つも重なっており、残念で仕方がない。海外から招待した外国人も、他の関連の発表を聞きたかったと漏らしていた。一般口頭発表に選ばれたうちの学生もRNAのシンポジウムに参加できないという信じられない状況であった。さらに最終日の午後ということもあり、参加したがったが、帰りの都合で参加できなかったという、しりあいが多くいる。プログラム編成に強い不満がある。
※	最終日に一般演題が集中しており、移動などに時間がかかったこともあり希望の演題を全て回れなかった。それぞれの研究分野について、4日間に演題を振り分けたほうが良いと思う。
※	ポスターと口頭発表を同一日にしてほしかった。
※	数が多すぎて聞きたいセッションが重なりすぎていた
※	自身の発表と同時間の発表を見ることがほとんど不可能な点をどう解決できるかにいつも頭を悩ませている。
※	・目的設定に対する結論の出ていない、完成度の低い演題を排除すべきである。または、区分すべきである。・口頭発表を最終日に固める態度はいただけない。・口頭発表の会場はランダムに決定されているのだろうか？構造系は商工会議所など僻地の印象あり。同額の参加費を支払っている参加者の発表機会および聞いてもらうチャンスを、テーマに基づき意図的に差別しているのならば断じて許されない。異分野で聴きあう機会を作らないなら大勢で合同する意味が無い。
※	最終日の構成はもう少しなんとかならなかったのでしょうか？口頭発表があたっている人だけ残って、他はさっさと帰れ、という印象を受けました。
※	一般演題とシンポジウムなどが時間的に混合しているのに、プログラムが分けてあるから調べるのが面倒だった。そもそもシンポジウムと一般演題の組み方にそれほど差があるのだろうか。参加する側からはそれほど意識しない。
※	ポスターセッションの時間を長くすべきと強く思います。また、できれば2分割ではなく3分割以上にすることを希望します（斬新過ぎるかも知れませんが）。
※	ポスターからの一般口頭発表について、最終日の最後の時間帯に設定されている場合もあったが、この時間帯まで残っている参加者が少なく、発表する学生は大変残念がっていた。
※	セッションの数が多すぎた。
※	口頭発表後にポスター発表があるように設定すると良いかと思います。
※	口演をもっと増やしてほしい。発表日の事前選択システムの導入 口演およびポスター発表について、平日もしくは土曜のいずれかを選択できるようにしてほしい。4日間全体に参加することは難しいので、自分がどの日に発表するのかをあらかじめ選択できるようにしてほしい。
※	ポスターセッション会場に問題があった。移動距離が長く、時間がかかりすぎた。
※	ポスター発表では、昨年のようなディスカッサー制度を導入したほうがよかった。これを分子生物学会のセールスポイントにしてもいいと思う。もちろん、発表者側にも聴衆をひきつける努力は必要だが、半ば強制的でも議論ができる環境を用意すれば、学生や若い研究者にとっては大きな自信につながると思う。
※	自分の発表の時間に他の発表者とdiscussionできないのは残念である。
※	一般講演を最終日に集めたのは良くない
※	今回のスケジュールではシンポジウムやワークショップの聴講が優先されるため、この規模で行うのであれば無理に一般演題のトークセッションは設けなくてもよいのでは？ただし、なくすメリットもないのであれば、現状でも構わない。
※	学会からの発表賞を設けて欲しい。
※	1件あたり、たかだか10分程度の一般口頭発表のために聞きに行く気は起きなかった。
※	一般口頭発表は、ポスターでも聞けるので、ポスター時間を長くして、口頭発表の分は、シンポジウムやワークショップに充てて欲しい。
※	一般口頭発表がポスターセッションよりも前の日程に設定してもらえると良かった。
※	ポスターの時間は昼間が良いが、夕方の公園まで時間が空き過ぎだと思う。
※	最終日の午後に一般発表となった方は気の毒に思えた。せめて午前中にすべきでは？
※	ポスターの発表時間に、ワークショップ等をいれなかったのは良いと思う。しかし、夕方のセッションまで待つ時間が長いとも感じた。
※	口頭発表はポスター発表よりも前が良かった
※	口頭発表後にポスター発表という流れにして欲しい。ポスター発表に続いて口頭発表だと、聞きに来ない。
※	ポスターに時間を取り過ぎる。ポスター発表は以前のように夕方にして、日中はシンポジウムやオーラルセッションに集中した方が良いのではないか。
※	一般演題のうち、ポスター発表の後に口頭発表となるケースは避けるべきである。口頭発表時間は非常に短く設定されているため、ポスター発表の前宣伝的な役割を果たし、深い議論を可能とするが、逆では口頭発表を行う意義が薄れてしまう。
※	シンポジウムやWSが20以上並行して行われる中で、一般口頭発表をしても聴きに行く人がいないのではないか。
※	土曜日もポスターがあったほうがよかった。
※	ポスターはいつものように夕方よりの発表の方が良いと思う
※	同じテーマの内容は別日程にしてもらわないと、20個もシンポジウムがあるので興味があるのに参加できないものが多すぎる。
※	ポスター発表の時間帯はその日の最後にすべき。

質問18. 一般演題について ＜複数回答可＞ （その他）

回答者番号	その他記述
※	ポスター会場がばらけており、興味あるポスターを全て回るのが不可能。何かしらの工夫が欲しい。
※	口頭発表後にポスター発表があると良いと思う。
※	土曜日の昼に一般口頭が設定されていたのが少し残念。
※	一般口頭発表はポスターの宣伝になるので、各発表について、ポスターの前に口頭発表ができるような日程がベストでしょう。
※	ポスターセッションは夕方が良い
※	ポスター発表の時間帯も本年度は良かった（午後の早い時間）
※	日程の都合上、ポスター→口頭になってしまいましたが、口頭→ポスターの方が、興味を持っていただいた方と議論ができたのではないか、と思いました。
※	ポスターの時間帯が中途半端だったため、移動が面倒だった。また企業ブースもポスターの終わりとともに閉じてしまうところが多く、うまく回れなかった。
※	ポスター発表後に、土曜日の午後に一般口頭発表があったのは非常によくない。セッションによってはガラガラだった。自分がみたセッションでは、参加者が少なすぎるため、座長しか質問していなかった。発表者にも座長にも時間の無駄である。一般口頭発表を入れる時間帯をよく考えて欲しい。時間がなければ会期を伸ばすか、ワークショップなどと重ならない一般口頭発表だけの時間帯を設けて欲しい。あと、ポスターの発表は一日の最後が良かった。
※	ポスターと口頭発表の両方を別の日に行うよりも、ポスター発表日・時間を複数にする方が良いと思います。ポスター発表時間が足りないと感じました。ポスター発表者の「貼り逃げ」を防ぐしくみがあっても良いと思います
※	今回の学会は近年で一番良くなかった。参加人数を増やすことを狙ったのだろうが、内容優先ですべきでシンポジウムなど口頭発表の事前のテーマの選択と検討が重要であると思った。
※	口頭演題のみで構成したのと、最終日に多数設定したことが災いし、全体的にガラガラで、質問もまばらな感じだった。部屋によっては聴衆数名という会場もあり、発表者が気の毒である。
※	日本語可にするべき。英語も大事だが、分子生物学会の良さがなくなった。
※	参加していない
※	口頭発表のあとにポスター発表を持っていくべき。先にポスターがあると、口頭発表をうけてのdiscussionができない。
※	ポスターから一般口頭発表に採択されるのは良いが、ポスターが先で口頭発表が翌日(最終日)担っているものが多々ありました。これでは、あまり意味がない。また、発生学会主催のシンポジウムの時間に発生の一般口頭発表があり、発生研究者が両方を聞くことができない様になっていたのは問題だと思います。会期を3日にし、午前と午後に口頭発表、夕方にポスターセッションというようにしてほしい。
※	同じ分野の発表は出来る限り同日にして欲しいポスター時間は偶数・奇数に加えて自由な時間も作った方が良い（45分、45分、45分や1時間1時間30分など）
※	一般口頭発表は、参加者が少なく、気の毒。ワークショップやシンポジウムへの登用を考慮すべき。
※	ポスターセッションは夕方が良い
※	仕方がないことは承知の上で、一般口頭発表の時間は、ポスター発表のそれより前にできる限り設定してほしいと思った。
※	一般口頭発表をあえてもうける必要性を感じませんでした。全てポスター発表でよいと思います。ポスターをできるだけ英語で用意するように案内があったと記憶していますが、英語で用意したのであれば英語で発表・質疑をしなければ片手落ちだと感じました。どちらの言語を用いるかは発表者に任せるとして、使用言語に統一すべきと思います。英語のポスターを使いながらの日本語で発表・質疑は非常にやりにくかったです。
※	ポスター発表の前に口頭発表ができるようにしてほしい。
※	一般公演演題の会場の盛り上がりが欠けていたらしい（私自身も一度も足を運ばなかった）ので、結果的に登録しなくてよかったと感じた。（討論の時間が十分に持てたこともあり、ポスター発表だけでよいと感じた）
※	口頭発表の間にポスター発表を挟むより、午後の口頭発表が終わって夕方のポスター発表の方が良い
※	午前と午後に2セッションずつ入れるべき。午後の時間が無駄。
※	一般口頭発表採択数は減らしたほうが良い。
※	ポスターセッションで共同研究者との連番で採択して頂いた点は良かったのですが、ポスター貼り付けの場所が裏表であったため、説明が難しかった。また、奇数番が先、偶数番が後での発表であるならば、連番での発表は、先になる発表を奇数に振り分けるなどの配慮があるともっと良かったと思う。
※	移動や時間外の閲覧の点からポスターセッションは夕方にして欲しい。
※	最終日の夕方遅くに発表を割り当てられたため、遠くから参加している者としては、時間的に厳しい。
※	最終日（しかも土曜）に一般口頭発表が偏り、かなり聴衆が少なかった。一般口頭発表は学生や若手研究者にとって重要な発表の場なので、日程の中日付近に配置し、より多くの聴衆が集まるようにした方が良い。
※	一般演題の数が少なく、もう少し増やした方が多様性があるのでは、という印象を受けました。
※	類似分野のセッションが同時に開催されているケースも多かった。聴衆の数が減ってしまう最終日の最後（夕方）に口頭発表のセッションを開催するのはいかがなものか。終了時間が18時だと遠方からの参加者は最後まで居られないか、後泊を余儀なくされる。
※	一般口頭の時間帯は、効率よく発表を聞けるような工夫が皆無であったと思う。
※	同一演題のポスター発表と一般口演発表のために2日間仕事を休むのは難しい。ポスターと口演を同日にできないか。
※	午後の口頭発表の開始時刻は、今回以上遅らせるのは難しいだろう。
※	Eポスターやフラッシュトークなどのブースがあると良いかもしれない。
※	並行で聞けないセッションも多かったがLODがあったのでよかった。
※	ポスターセッションの時間を短くして、プレナリーレクチャーやシンポジウムの時間重複を減らしてほしい。

質問18. 一般演題について ＜複数回答可＞ （その他）

回答者番号	その他記述
※	最終日（しかも、土曜日）の午後のセッションはきつい、まと、そこに設定されたプログカムの方はかわいそうだ。
※	協賛団体の参加によって発表が多様化すると期待していたが、従来の分子生物学会・生化学会の合同大会との差はあまり感じなかった。
※	ポスターの時間帯がよかった。夕方にするよりもよい。ポスターセッションの形式も、完全な自由討論形式というのがよかった。形式的な巡回式はむしろ聞きづらくなる。
※	シンポジウム・ワークショップと同じテーマの一般口頭発表を同じ時間に行うと、一般口頭発表の聴衆が減ってしまうのが問題だと感じた。
※	学生などは、学校の行事などで土日しか参加できない場合があるので、自分の発表の日程を選べる（絞れる）システムを導入してほしい。例えば、土日の発表であれば参加できるが、それ以外は授業で参加できないので演題を取り下げるというケースもあるので。
※	プログラムを組むのが難しいとは思うが、最終日の一般口頭発表で同種のセッションが同時間帯に平行開催されたのは残念ではあった。
※	ポスター会場の換気を良くして欲しい
※	最終日に一般口頭発表を集めるのは好ましくない
※	とにかく発表が多すぎる
※	3日目ポスター、4日目一般口頭発表の編成に不満がある順として、一般口頭発表の次にポスター。でなければ、同じ日に。
※	参加できなかったので、わからない。
※	後半の口頭発表の開始が遅い。もっと早い方が良い。
※	興味部深いテーマが分散した。検索アプリを使いこなせられれば良かったのかもしれませんが。
※	似たような内容が同時間にあり、両方に参加できない
※	午後のポスター観覧の時間が長すぎたので、ホテルに戻ってしまった。その後のセッションをもう少し早くから始めた方が良い。
※	ここ数年は同じ傾向だが、著名な研究室に所属しているか、注目のテーマでなければ、口頭発表の機会がとても少ない。
※	これだけ演題数が増えてしまうと、もはやポスターでは対応しきれていない。なので、これ以上どうしようもないので、「ちょうどい」とした。
※	ポスターから一般口頭発表に採択されるシステムは必要ないと思います。大会をダウンサイジングして充実させるためには、大会の構成自体ををシンプルにすべきであり、その意味では重複した発表は省くべきと考えます。ポスターではなくて、口頭発表を省くべきだと思います。
※	口頭発表→ポスター発表の方が良い。先に口頭発表をして、その後ポスターでさらに深く話す方が効率がいい。
※	ポスター発表の時間帯は、今回の方が良いと思う。今までの夕方からでは、皆、疲れている。
※	ポスターは例年通り夕方からがよかったです。口頭発表が夕方から夜になると、帰宅が遅れてしまうので保育園の迎えなど子育てに支障をきたします。また、ポスターからの一般口頭に採択されたもので、口頭発表を聞いてからポスターで詳しく話を聞きたいのですが、ポスターが先になってしまっているがために聞けないものがいくつもありました。
※	ポスターセッションの時間は従来通り遅い時間にしてほしい。セッション終了後、剥がしにくるのにまた数時間後にポスター会場まで行くのは手間である。そのためか、セッション終了後すぐ剥がしている発表者が多く、ポスターを見て回る時間が足りなかった。

質問19.　企業展示会について　＜複数回答可＞　（要望・その他）

回答者番号	要望・その他記述
※	会場が分散してよくなかった。
※	今回、●●がサテライトミーティングを開催しましたが、ConBioのプログラムには情報がありませんでした。Webサイトに掲示板的な機能を追加し、オープン、クローズドを問わず、サテライトミーティングやグループディナー、同窓会等の情報を掲載すれば、参加者の交流の助けになると思います。
※	参加者の情報をスキャンすることと、そのために景品を使って抽選会などをやることに必死で、肝心の製品の紹介がおろそかな企業もかなりあり、いまいちだった。タイマーより製品サンプルの方がいい。
※	ここ毎年、バブル期に比べて展示会が貧弱になってきている印象ですが、今年は特に展示場の雰囲気(照明？)が貧しい感じでした。
※	また企業ブースもポスターの終わりとともに閉じてしまうところが多く、うまく回れなかった。もっと長い時間対応してほしい。
※	積極的でないメーカーが多い。特に大学の名前を見て対応変わるのは、、、。まあ商売なので分かるのですが。
※	企業展示は要らない。
※	企業展示を多くし、参加費抑制につなげるべき。
※	バーコードがあるので書く手間は省けるが、このシステムは参加者より企業側のメリットが大きく感じた。
※	今回、これだけ企業展示を集めたことによる、来年度の学会（生化学会）での反動が心配です。
※	バーコードシステムは参加者・企業の双方にとって便利なシステムだと感じた。
※	会場が広いので、シンポ・ワークショップ・一般演題口頭発表に参加し、ポスター発表会場でDiscussionしていたら、企業ブースに行く時間を確保できなかった。各会場への移動時間がかかるため、企業ブースへの訪問時間が削られる感じ。
※	ノベルティのカバンが大きすぎるので邪魔だと思いました。
※	時間が短かった
※	業者出店の機器展に関しても、興味あるものだけを見たり聞いたりしていくと、それだけで1日半くらいの時間が必要だと思いました。出展者の中には公的機関も多く、大変高度な内容を展示しているのに、時間の関係から充分その高度さを聞いたり理解したりできないものも多かったと思います。そういう機会がありながら、大変残念なことだと思いました。
※	今回は各企業、あまりやる気を感じなかった。惰性で来ているだけで、新しい提案などは少なく感じた。

質問20. ランチョンセミナーについて ＜複数回答可＞ （要望・その他）

回答者番号	要望・その他記述
※	ランチョンセミナーのチケットがすぐに無くなってしまうのは問題かと。
※	整理券配布の際のバーコード方式はスムーズで大変良かった。
※	参加者数が多すぎ、かつランチョンセミナーが少なすぎて、1つも参加できなかった。
※	朝早くに会場に行くことが出来ないので、ランチョンの整理券の配布時間を工夫してほしい。
※	数を増やして欲しい。参加できなかった。
※	セミナー数が参加者数に対して少なく、すぐチケットが無くなってしまった。8時からの発券で8時に来ても、9時まで時間があいてしまった。
※	規模が大きい割にあまりに少なすぎました。
※	会場が離れていて移動に苦労した。寒くて大変。おまけに商工会議所の、エレベーターは省エネのため停止、テーマ間の差別感を感じた。
※	興味があっても、参加券が入手できず、参加できなかった。学会参加人数に対し、席数が少ない印象。大規模学会化したことの弊害のひとつ。当日配布ではなく、事前登録制が好ましいように思う。
※	席数が少なすぎた。無料の昼食を期待しているのではない。会場に昼食をとる施設がないため、短い休み時間で昼食を効率よく摂るためにランチョンセミナーを利用したい。
※	事前参加登録枠は設けない方がいいと思います。
※	企画が少なすぎて参加出来ない。
※	各会場で、多くの人がランチ整理券をもらえなかったようだ。より多くの人が参加できるようにして欲しい。
※	ライチョンセミナーは競争率が高いので断念したが、昼食買う場所、食べる場所に困った。特に寒かった3日目は困った。昼食用に会場を開放して、ライチョンセミナーの中継でもしてほしい。
※	昼食も欲しいのでチケットを取りにいったが、講演開始よりだいぶ前にチケットがすべて捌けてしまう状態には問題があると思える。
※	ランチョンセミナー、少なくて予約券が取れず全く参加できなかった。
※	ランチョンセミナーの食事は興味ないが、講演は聴きたいと思う。が、整理券をもらいに行くのが面倒なので、結局行かない。事前予約制にしてほしい。
※	前の講演が少し延び、かつ会場が広いために時間に間に合わなかったが、そのために整理券が完全に無効になり、整理券を持っていない人が優先されるのはよくないシステムだと思った。事前報告で無効にならないなどの対処があればと思った。
※	神戸は昼食を取れる場所が限られているのでランチョンセミナーがもっと多いと助かります。特に分生は学生が多いので。今回は事前予約がなかったのもつらかった。
※	整理券数が少なくて参加できなかった今後はもっと数を増やすべき
※	希望のセミナーに参加できなかった。以前検討された事前の抽選により参加者を決定するシステムが良かった。
※	皆に整理券が回らないのは寂しい限り。もうすでにスポンサーから見て魅力のある学会ではないということか。
※	事前予約を実施してほしい
※	分子生物学会へ参加する大きな目的の一つとして、新技術についての情報収集がしたいということがある。そして民間初の新技術はこれまでランチョンセミナーが非常に有用であった。しかし、近年企業によるランチョンセミナーが激減している。1つの原因は、企業が主催するランチョンセミナーに対してアカデミックな講演内容を義務づけているからではないかと思う。もう一つは主催の経費が高いのだろうと推測します。企業が主催するランチョンセミナーは企業が新技術を紹介する時間に充てるべきであり、アカデミックな内容を強制するべきではないと思う。企業の主催費用の値下げなどの大胆な対策を取って頂きたい。
※	参加人数に対してランチョンセミナーの数が少ないと思います。協賛してくださる企業が多くあるとうれしいのですが。
※	ランチョンセミナーの時間にもっとシンポジウムを行い、他の時間のシンポジウム、ワークショップの数を減らしてもいいと思う。5,6個のランチョンセミナーに全員が参加できるわけがないので、一般のシンポジウムや、フォーラムがあっても良い。最終日だけ、まとめて詰め込みすぎだった。
※	もっと多くの人が参加できる様にしてほしい。
※	ランチョンセミナーを取れないので、出張店舗で軽食をとれるのは良かった。
※	大学によっては、ランチョンセミナーに出席した場合はその日の日当を支給しない、としているところがあります。そのため宿泊地から会場までの交通費や経費などを考えると、ランチョンセミナーは参加しにくいという状況が生まれつつあります(特に学生)。
※	昨年の抽選制よりも本年度のシステムの方が良い。
※	企業の就職セミナーがあったのは、教員側としても勉強になるのでとても良いと思う。
※	少なすぎる
※	チケットがすぐなくなっていたので、セミナー数や座席を増やしてほしかったです。
※	チケットがすぐなくなり、お昼を食べる場所が少なくて困った。神戸ポートアイランドで行うなら、コンビニで買って、外でも食べられる時期に開催してほしい。
※	毎朝8時半ごろにチケット配布場所に到着したが一度もチケットが取れなかった。やはりある程度事前申し込み(7割ぐらい)として、あとは当日会場に並んでもらうほうが無駄足にならず良いと思います。とにかくランチョンセミナーの席の総数が少なすぎるので、運営の立場のかたはより努力していただけると助かります。特に神戸は周りに食事できるところが少ないですし。
※	もう少し数を増やしたほうが良いかも
※	参加していない
※	ランチョンセミナーの数が少なく、配布されるお弁当の数も例年より少なく感じました。
※	弁当不足。

質問20. ランチョンセミナーについて ＜複数回答可＞ （要望・その他）	
回答者番号	要望・その他記述
※	お弁当が不足
※	お弁当が不足
※	参加人口に対して開催数が少なかったように思います
※	配布数が限られすぎています。
※	3日目に参加したが、以前より新しい商品を使った実験方法を示すようなものが減った気がします。顕微鏡などは高くて買えないので、新しいキットなどの利用方法など、自分が買って使えそうなもののセミナーがいいです。
※	最終日のランチョンは良かった。来年以降も続けてほしい。
※	時間設定が最悪。今回のスケジュールを作成した人は想像力がないのだろうかと思う。午前中のセッションで発表していた人は、終了してから15分で会場間を移動できますか？発表者同士で挨拶、意見交換していた私は全くランチョンセミナーに間に合いませんでした。
※	ランチョンセミナーの数が少なすぎる。また、以前のように事前予約制にして欲しい。
※	人が多すぎて、参加できなかった。
※	協賛企業を増やして、より多くの会員がきけるようにすべき。
※	ランチョンのチケット数が少なすぎて入手が難しかった。特に、初日のチケットは、朝一番の飛行機で到着して（8時40分神戸空港着）も入手できなかったのが残念だった。以前のように、事前申込で抽選していただければと希望します。
※	参加整理券の争いが修羅場になっているのは、どうにかなりませんか？オンライン事前抽選制に変えませんか？
※	定数が少なすぎる
※	参加者の多くが人数制限のためにランチョンに参加できない。
※	会場が小さすぎ。数が足りなさすぎ。
※	参加者数の割に会場が少ないと思う。
※	予約時間制限があり、僅か2，3分遅れで列に並ばなければならなくなり，参加を断念した。なんともいえない。
※	近隣に食事ができる場がほとんどないため、参加者分のランチョンセミナーを開催すべきである。
※	昨今、ランチョンセミナーを開催してくれる企業を集めるのは困難だと理解しているが、毎日3～5会場では、学会参加者の一部しか入場できない。会場はあいているのだから、企業のランチョンセミナーと併行して、サイエンスのセッションを開催しても良かったのではないか。神戸はランチを食べられる場所が会議場周辺に少ないので、ランチョンセミナーに入場できなかった場合に困ることが多い。
※	参加人数の割に、開催数や企画が少なかったのではないかと思いました。
※	お弁当付きのため、弁当目的でなくても聞きたいものがあるのに、聞けなかった。
※	全体の人数に対してランチョンセミナーの数が少ない
※	所属機関の出張手続きでランチョンセミナーでランチを食べたかどうか確認されるので面倒
※	参加したかったが、全てのチケットが朝の早い段階で無くなっていたので、参加できなかった。お昼ご飯を食べる場所も会場周辺には限られているので、非常に困った。ランチョンセミナーの数を増やすのが良いと思います。
※	セッションの数とごはんの数が少なかったと思います。
※	他の学会のように、事前登録できて、全ての人がランチ付きで参加できるようにしてほしい。朝にチケット取得のために時間がとられるのは無駄だし、取れなかったときは残念だった。臨床系のセッションを増やして製薬企業に出してもらったらどうか。
※	枠が少ない
※	数が少なかった。純粋に学術的に興味があるトピックも幾つかあったが、チケットが取れなかった。学会として金が潤沢にあるのだから、企業からカネを取るだけじゃなくて、弁当を補助しても良いのでは？制度上弁当の補助は現実的じゃないかもしれないが、ランチョンにアプライするのに企業が支払う金額を下げるとか。
※	最近ランチョンセミナーの数が減った気がします。不況の影響なのでしょうか？
※	以前オンライン予約があったと思うがそれが良い。
※	お弁当があたらなかった
※	チケットを持っていたのに入れなかった。
※	参加したが、予約の仕組みが解りにくかった。ランチも配布資料もいただけませんでした。
※	従来の年会よりも、魅力的なランチョンセミナーが少ないと感じた。
※	数が少ない。希望者が全員は入れる数や規模にすべき。
※	余りに倍率が高すぎ。
※	参加人数に比して、ランチョンセミナーの数が少なすぎるように感じた。
※	すぐに整理券がなくなった
※	チケットが少ない。
※	整理券の数をもっと増やしてほしかったです。
※	参加者に対して、数が少ないです。
※	いくつかどうしても聞きたいものがあったのですが、人数が多くて参加することができませんでした。 大会自体の参加人数が多すぎると思います。 大会の規模からしたら、ランチョンセミナーは今回の倍くらい必要だと思います。
※	高い弁当である必要はないので、コンビニのり弁当レベルの弁当でも、チケットなしで並ぶ人にも行き渡るとよいと思います。
※	当日参加はほとんど無理であった。弁当はなしでも、話だけ聞けるようにしてほしい。

質問21. ITシステム（WEBシステム・アプリ）について ＜複数回答可＞ （その他）	
回答者番号	その他記述
※	アプリを使ったシステムは次回以降も続けて欲しい。
※	情報非公開がデフォルトのため、せっかくの研究者交流ができなかった。
※	カレンダーと同期が2重に登録されてしまい、使いにくかった
※	会場マップがとても見づらい
※	ガラケーしか持たない人間にも配慮した、プログラム冊子を作って欲しい。索引のないものは役に立たない。
※	アプリは充実しているので良いが、全会場でネット接続できるようにするべきである。ポートピアホテル内会場はWiFiがなく、不自由。
※	今回のアプリは様々な学会でもよく利用するが、基本的に使いにくい。・メニュー画面に項目が多すぎて煩雑・抄録までのキー操作が多い・タイムテーブルの画面で演題タイトルを一覧できない・タイムテーブル上で抄録などの情報に直接アクセスできない・希望する講演をチェックしたら、自動的にスケジュールを作って欲しい（次に移動すべき会場のお知らせ機能など）
※	発表者やタイトルで検索した後にも、要旨に飛べればよかった。検索後、またプログラムから入らないと要旨に行けなかったのは、手間だった。
※	SNS機能はデフォルトが情報非開示になっており、それで交流が妨げられた感がある。最初に選択させるべきだと思う。
※	以下，アプリ版の感想．参加者・発表者検索が使いにくい．参加している人の名前を入れてもヒットしないことが多い．所属についても略称が完全に一致していないとヒットしなかった．あいまい検索が弱い．ヒットした参加者の演題へのリンクがない．直接要旨にとべるとさらに便利．つながらずタイムアウトになることが間々あった．検索のいっそうの強化を望む．
※	検索に履歴があればいい
※	マイスケジュールで登録した演題が含まれている、シンポジウム、ワークショップのページにリンクされていないのは、使いづらかった。
※	昔の要旨集の方が見やすい。
※	評価するがこの手のアプリはますますセキュリティ等手間がかかり。使いにくさこの上ない。
※	商工会議所では、そもそもWifiが設置されていなかったため、会場で要旨の参照ができなかった。
※	スマホ持っていませんが何か
※	情報が更新されるので非常に有意義。
※	いいねは必要ない
※	スマートフォンやタブレット式端末を持たない者は、会場で利用できないので、冊子の方に発表者索引があった方がよかった。
※	手書きメモ機能がほしい。結局ノートとの併用になり情報が分散する。一括転送できてほしい。
※	要旨PDFがiPadで表示できなかった。
※	今回のように会場が広く分散しているときはもう少し案内をする機能を充実させてほしい。
※	検索ヒット画面で演題にチェックボックスを設け、選択演題の一括マイスケジュール登録、いいね、pdf出力などができるとありがたい。会場設定からしてシンポジウムやワークショップにおいて演題ごとに会場を移動するというのは日効率であるため、どの演題を聞くかではなくどのセッションに出れば一番自分の興味に合致するかという観点でスケジュールを組むため、検索後、その演題が属するセッションの画面へ飛べたら閲覧の操作性が上がる（ポスター発表はこの範囲ではない）。
※	アプリしか使っていないので、便利であった。現在の発表を表で見られるのが、重宝したが、各日全てをそれで見られたらもっと良かった。
※	マイスケジュールで選んだ演題に更にチェックを入れる機能があると良かった。（マイスケジュールで選んだポスター演題を実際に拝見した中から更に発表者と討論してみたいと思った演題にチェックを入れる機能。沢山ある演題をスマホでスクロールしなければならず、情報の整理に手間取った。）
※	相変わらず演題検索やマイスケジュールへの追加機能が使いづらかったです。
※	ホテルでもWiFiがつかえるようにしてほしかった。
※	プログラムブックに発表者索引が必要
※	不便に感じた部分もあったが、今よく思い出せない。システム使用中に改善意見を書き込めるようなメニューを付けてほしい。
※	検索してみたい演題をチェックしたあと、演題を記録したまま戻って、次の演題を検索できるようにしてほしい。いままでのアプリは、戻る機能がないので、webの戻るボタンで戻ると、チェックした記録も消えてしまう。
※	スマホ画面は小さいので、見やすくするためのより一層の工夫が必要と思います。
※	プログラム検索がブラウザ機能を使っているのはよいが、絞込みができないので常に該当するすべてのプログラムを見なければならないのは不便だった。
※	アプリが使えない時間もあったので、小冊子（索引つき）はあっても良かったと思った。
※	このシステムを利用するなら会場のどこでもwifiが使えるようにして欲しい。
※	ネットにつながっていないと使えないので、結局は興味のある要旨を印刷してもっていきました。
※	メモを取れるのは便利だと思ったが不注意で保存しないまま閉じてしまいがちだったので自動保存機能か、せめて変更されている場合には保存するか聞いてくれる機能があると良かったです。
※	検索がうまくできないようだったもう少し検索システムを充実すべき
※	マイスケジュールが登録順ではなく、時間順に並んでほしかった
※	不要な機能は削ってほしい。おもすぎる。
※	日本農芸化学会の「マイスケジュール」機能は、表になって表示されるので、もう少し使いやすいです。御参考までに。

質問21. ITシステム（WEBシステム・アプリ）について ＜複数回答可＞ （その他）

回答者番号	その他記述
※	自分だけ見ることができると考えていたマイスケジュールが他人でも見ることができることはよくない。探している人がどの会場にいるかには使えるが、仕事上参加する会場と、自身の興味（勉強）のため参加をしている会場とがある。特に職場での説明をすることなる場合もあり、可能であればマイスケジュールは本人のみに閲覧にしてほしい。
※	オンラインでの情報の読み込みが非常に遅い。「いいね」は不要。
※	SNS機能があまり有効ではない
※	研究者の交流促進ツールとして使うのであれば、連想検索機能があればよいと感じた。ある演題に関係する演題やキーワードの検索が容易になる等。実装は難しいとおもうが。
※	マイスケジュールをPDF変換するときに、日付ごとに改ページするオプションがあると嬉しい。印刷しやすい。
※	会場図面がわかりにくかったです。特に、講演会場を移動するときの複数の会場の位置関係がややわかりにくかったです。
※	スマホアプリで使用しています。一日に何度もデータを更新するのを止めてほしい。ソフトを使おうとすると、（大きな）データのダウンロードが始まって、しばらくソフトが使えなくなります。（特に通信回線が悪い場合は時間がかかる）データ更新は最高でも一日に一回に制限し、出来れば差分だけを簡潔に取り込めるようなソフトへの改良が望ましい。
※	アプリのダウンロードがPlayStoreに限られているのは困る。学会HPに置けばよい。
※	全般によかった。検索が早くていい（ダウンロードのためか）、立ち上げるたびにデータ更新を聞かれるのは不要だと感じた。または差分だけとれるようになっていたのか疑問。DLに時間がかかった。ある発表とにた発表が以前見られたのが、今回無くて残念。
※	直前に参加を決めたので要旨部分を当日になるまで読めなかったのには不満が残る。
※	複数会場を移動する必要があるので、マイスケジュールから演題番号と会場名を簡易表示する機能が欲しいと感じました。スマホの一画面でどこに何時に行けば良いか確認できる早見表の表示です。
※	事後登録で参加費の決済ができないために、オンラインで登録を義務づけられているのにパスワードの取得ができず、プログラム検索結果の保存や要旨の閲覧が当日までできないことが今回の学会の最大の欠点であったと思う。
※	プログラム検索機能は非常に良い。このおかげで分厚い本を持ち歩く必要がなくなり非常に助かる。会場ナビ機能は便利であったが、もう一工夫として、会場全体（展示場、商工会議所までの全体が俯瞰できるマップ）とのリンクが欲しかった。各演題、抄録ページそれぞれに対してメモ機能がついていたのも良かった。しかし、これをpdfに変換して外部出力する機能には不満あり。抄録とメモが別々にしかpdfに変換できなかった。抄録の下に記述したメモが付加されているpdfが出力できるようにしてほしい。プログラムのダウンロードできる時期がもう少し早くなってくれると喜ばしい。
※	マイスケジュールから、セッションの情報へ飛べなかったのが少し不便でした（同セッションの他の発表情報を見るのに、プログラム検索に戻らなくてはいけなかった）。
※	コンピュータでの配信を基本とするなら、それを見るためにPCを使う参加者用に電源の設置を要望したい。
※	徐々にアプリの応答性が悪くなった気がします。自分の発表の注目度がわかるのはとても良いと思いました。
※	参加していない
※	マイスケジュールでスマホに通知が来ると便利だと思います。
※	重くて接続できない
※	発表者検索や演題検索で表示される演題や抄録からマイスケジュールへの登録することが出来なかったのが使いにくかった。日本癌学会や日本病理学会のアプリの方がずっと使いやすかった。
※	大変すばらしいアプリで、大絶賛したいです。これからはデフォルトとして、すべての学会で活用してほしいと思います。もう分厚い抄録集を持ち歩く必要はありません。アプリで、聞きたいプレゼンをチェック、学会スケジュールは自分のスマホのMYカレンダーに転送され、発表の5分前にはスマホがアラーム機能で知らせてくれます。広い会場でも迷うことなくスイスイ、会場の照明が暗くてもスマホのバックライド機能でメモが取りやすい。まさに完璧です。唯一の問題点は、ポスター番号と掲示版（ボード）番号をリンクされる機能がなかったこと。もちろん掲示場所はすぐにわかりましたが、他の機能が素晴しいので敢えてコメントさせて頂きました。
※	ナビ機能は、google mapなどの現在地とリンク出来るとよいと思いました。アプリに関しては、アップデートが頻回に入るので、逆にすぐ確認できずに不便でした。アップデートは選択可能にするとよいと思います。座長としては、英語がすぐに出てこないので、氏名の読みがわからずに不便であった（事前に各人のウェブサイトで確認していきました）。
※	試みとしては良いと思うのでもっと良いものにしていけるといいと思う
※	アプリは大変良かった。できれば、コンピューター上でも同じアプリで見ることができれば（みえたのでしょうか？すみません）、もっと良かったかもしれません。なぜなら、スマートフォンのアプリだったので、書き込みがしづらく、メモを取るのがやはりノートになってしまったためです。
※	ポスターの展示場所の地図表示機能がなかったと思うので、不便だった。
※	自分がどこで行われるどのセッション（ポスター）に参加して、どのセッションをオンデマンド配信で見る予定なのか、を把握することがまず重要で、それ以外はほとんど必要ではないように感じました。
※	以前から分生のアプリは優秀、他の学会も見習うべき
※	プログラム検索については、絞り込み検索機能をつけてほしい。詳細検索は極めて使いにくかった。また、曖昧検索を可能にする、検索候補表示機能などを希望
※	シンポやワークショップの個別の講演者の発表ページとワークショップ、シンポの発表一覧へ移動する方法がわからない。
※	会場に設置してあるパソコンがそもそも動かなかった。

質問21. ITシステム（WEBシステム・アプリ）について ＜複数回答可＞ （その他）

回答者番号	その他記述
※	とにかく非常に便利であった。非常識な規模の大会であったため、アプリがなければ途中で参加を断念していたかもしれない。
※	使っていない
※	検索でヒットした演題を「マイスケジュール」に移行できればなお良かったと思う。
※	現実の会場の案内が親切とはいえない。一カ所の会場のはずなのに、大変わかりにくい。会場の格差があるが、どのようにして割り振ったのか、そのポリシーが見えない。予想参加者数なのか？
※	使用していない
※	良いシステムだったので、継続してほしい
※	要旨集などの所属欄が発表者のみの記載しかなかったので、発表を聞くかいなかの選択や聞いた後の問い合わせのための情報が足りていないと思いました。この点は、改悪だと思います。キーワード検索などが前回に比してしにくいという意見を持っている参加者の声を何度か聞きました。
※	便利だとの評判を聞いたが、自分には使いこなす時間がなかった。
※	アプリの導入は非常によく、今後も続けてほしいが、検索が非常に使いにくかった。検索ウインドウはトップページに置いて、どんなキーワードでもできるようにするほうがよい。昨年も利用したが、利便性が全く向上していないと感じた。
※	メール機能が便利でした。
※	使用していないので、よくわからない
※	スマホを持っていないので、ITシステムを使えない。紙媒体の要旨集が欲しい。
※	会場の一覧図を見たいときにWebではわかりにくかった
※	フリック等でも前画面に戻れるとよかった。
※	ネットワークが混雑していると作動までの時間待たされるので、使えない時があった。
※	キーワード検索ができるのか初めわからなかったので、わかりやすくなると良い。
※	スマートフォン，ノートPC等を常時利用していない参加者にとっては，利用しにくい。
※	「SNS機能（参加者⇔発表者）」は使われているのでしょうか？
※	参加者・発表者検索から見つかった演題をマイスケジュールに加えられないのは不便だった。
※	スマホアプリで、マイスケジュールのスクロールの途中から要旨に行き、次に元のマイスケジュールに戻ると、マイスケジュールのトップ（スクロールする前）になってしまう。これが極めて使いにくい。次回までに修正してほしい。
※	使ってない
※	共著者を含めた人名検索や索引があると良い。
※	アプリを使いこなすのに慣れが必要なので、基本的なところを変えないでほしい。
※	・ITシステムは、莫大な演題から埋もれている演題を探すには大変適していて便利だった。その一方で、大枠を把握してから少し詳細を確認しようとすると、個別に整理されすぎていて使い難く感じた。・スマホを持たないので、会場では結局プログラム本に頼って行動した。
※	アプリの中から、プログラムに掲載されていたカラーの全会場の日程表が見にくかったのは、とても不便だった。
※	iphoneで特定の演題のアブストラクトを閲覧中に、その演題を含むシンポジウム・ワークショップのタイトル一覧へのリンクがページ内に見つけられなかった(前後の演題へは1クリックで移動可)のは、かなり不便でした。アプリ起動時に、頻繁にアップデートが入ったが、立ち上げるたびにいちいちそんなに何をアップデートしたのかわからなかったです。特に、日中混雑した回線でアップデートしないとか、重要性の低いアップデートは回数は1日に1度までとかの設定が欲しいです
※	検索した結果の要旨が見れませんでした。これは致命的な欠陥だと思います。
※	例えば、「ゲノム編集」で検索すると、１５ページにまたがる演題がヒットします。４ページから１３ページの演題を見るのが一苦労で、特に１回接続が切れた後、１１ページだったが、見に行くのにすごく時間がかかりました。(1)1ページに表示する演題の数を増やすなどできるようにすれば改善されるのではないかと思います。(2) 1ページ目の一番上に表示される演題は、どういう根拠で一番上に来るのか、疑問を感じました。一方で、下の方に検索機能が出て、ほぼ全てのページから新しく検索ができるのは便利でした。
※	会場WiFiの接続が悪い。もっと強力・広範囲にすべき。
※	ITを重視するあまり、冊子体プログラムがお粗末になりすぎている。発表者索引が掲載されていないため、極めて使いにくい状態であった。また各発表には発表者全員の氏名等を記載すべきである。
※	アプリがあることは良かった。年々使いやすくなってきているのはうれしい。マイスケジュールの登録がうまくいかなかった。webとアプリでマイスケジュールの同期ができなかった。要旨のpdf表示が不可になることが多く、不便だった。シンポジウムやワークショップの抄録の一括ダウンロードがマイスケジュールに登録しなくてもできるようにしてほしい。

質問22-5. 今後の大会の開催形式について ＜複数回答可＞ （合同開催が可能な学会）

回答者番号	合同開催が可能な学会記述
※	蛋白質科学会、生物物理学会
※	植物，微生物関係の学会
※	協賛学会の、基準があってもよい。もし、団体を、増やすなら、学会に、こだわらなくてもよい。今は学会ありきの時代ではない。
※	今回の協賛学会はすべて。
※	日本基礎老化学会。小規模な学会だが、老化の基礎的研究をしているので、多数の方に興味を持ってもらえると思う。
※	何年（5年）に1度位は合同開催があっても良いが、通常は単独開催が望ましい。
※	日本基礎老化学会
※	協賛学会の参画が継続するのであれば，おのずとその数を増やし易い状況になると思いますが，応用生命科学分野，すなわち，医学・薬学・農学分野の学会は賛同が得られる可能性があると思います．
※	日本農芸化学会も、合同開催可能な学会かと思います。
※	日本脂質生化学会や日本糖質学会も合同でもよいかと思いました。
※	歯科基礎医学会理由：歯科の研究者にも最先端の科学を知って欲しいので。
※	日本薬学会、日本医学会
※	日本神経科学会、日本糖尿病内分泌学会、日本神経学会、日本サルコペニアフレイル学会などなどの臨床研究系と基礎研究の橋渡しがやはり面白いであろう。
※	細胞生物学会、発生生物学会、遺伝学会、ゲノム編集学会、酸化ストレス学会プロテオーム学会、RNA学会、エピジェネティクス研究会、人類遺伝学会、生理学会。
※	個体群生態学会？
※	今回の参加学会数は明らかに多すぎると感じました。JSTさきがけの出店のように使われるのもどうかと思います。
※	生物物理学会細胞生物学会
※	合同開催は行うとしても何年かに一度でよい。今回はとくに大きすぎるための弊害を感じた。よりコンパクトな日程とし、パラレルに行うセッション数も減らしたほうが、情報交換や研究者との交流にはメリットがある。進化学会は今回の協賛学会には入っていなかったが、分子生物学会と分野的にはアフィニティーは高いと思われる。
※	農芸化学会、細菌学会、毒素シンポジウム一方、細胞生物学会はマニアックな内容を扱う今のスタイルでいて欲しいので合同開催ではない方がイイと思います。
※	Q4で挙がった学会全て。生物工学会、がん免疫学会
※	植物細胞分子生物学会植物生理学会
※	合同または協賛を希望する学会を募集しても良いように思います。声がかからなかったが、協賛を希望する学会もあったようです。
※	私は「日本生化学会」と「日本分子生物学会」はそれぞれ単独で開催した場合でも、すでに「お祭り状態」を感じてきました。それぞれがすでに専門分野の連合会のようにも思えます。それだけ日本の科学が盛んだという証明であり、大変良いことなのかもしれません。しかしながら、「各大学で行える規模が適正」、「大会のコンパクト化、高密度化」という提案を真剣に検討することが現在の大変重要な課題なのだと思います。大会の小規模化（ダウンサイジング）は「後戻り」ではなくて、色々やってみた末の「最適化・効率化」であり、けっして後退とは思っていません。
※	学会が増えすぎているので統合して欲しい

質問22-7. 今後の大会の開催形式について ＜複数回答可＞ （その他）

回答者番号	その他記述
※	合同大会にしろ、単独開催にしろ、ある特定の分野(新学術領域の共催など)に偏ったシンポジウムが多く感じる。一般的な名前（タンパク質、細胞の構造と機能、など）のシンポジウムや一般口演が多いほうが、分野の偏りがなく、現状であまり注目されていない分野にも発展の機会が与えられるように思う。
※	数年に1回は今回のような大きな大会があって良い。
※	ただ、参加者数は多くなるので、宿泊施設が近隣でとれる場所がよい。
※	たいへん意欲的で質の高い合同開花だったが、その分敷居が高くなったきがする。大きく質を高めるには格付けや評価基準が必要になる。手間もかかるため毎年開催は難しくなる。五輪の様に別格化することも考えてもよいかも。
※	合同開催は隔年程度でよい。
※	分子生物と生化学は重複する部分が大きいので合同が良いと思います。他はあまり合同でやる意味を感じませんでした（包含されていると思いますし、逆に同時にすることで小さな学会の特殊性を出せなくなってしまうように思います）。
※	正直、例年の総会と特に変わらないと思いました。
※	少なくとも分子生物学会と生化学会は毎回まとめて開催してください。
※	今回の形式も大変に興味深いものであったが、単独開催のメリットも考えると何年かに一回開催できれば十分である。
※	分子生物学会会員にとって生化学会は興味のない分野も多いので、合同はやめた方がよい。
※	ひとまず、横に拡げるよりも、今回協賛を得られた学会との協力関係を継続して、強くしていくことが大切のように思います。
※	現状維持の単独開催と合同開催（生化学会以外でも）を混ぜた形式でよい。
※	学会同士を交流させる工夫が足りなかったように思う。
※	休憩所のイスが少なすぎる。テーブルも狭いため、パソコンを使うと、互い違いに座るしかない。
※	たまにお祭り的にこういう合同年次大会があるのはいいと思うが（10年後の分生50周年などで）、参加人数が多すぎて疲れるし、同時開催のセッション数が多すぎても参加できなくて結局いつもと同じようなところばっかり行くので分生会員にとっては合同開催する意味があるのか疑問
※	毎年形式が変わるのはやめてほしい。
※	専門性の高い学会の他に、包括性の高い学会が存在する価値は高いと考える。分子生物学会はそうした学会として十分に機能していると考えている。現状では合同開催をあえてする必要性は感じない。しかし、先鋭化が進んで、マイナー分野のプレゼンスが見えなくなってしまったようなときには、合同開催のような形で包括性をキープする努力を大いにしてもらいたい。今回、基礎生物系の学会では、日本進化学会が協賛になかった。さらに言えば進化学会系の分子生物角界におけるプレゼンスは昨今低いようにみえる。進化学会に限らず、多くの分野の研究者が意見交換できる場として分子生物学会にあって欲しい。
※	ポスター会場が複数あり、回りにくい。それは仕方ないとして、せめて、同じ会場の中で、遠くからでも一目でどこに何のポスターがあるのか、わかるような表示を設定してほしい。高い位地にある看板、風船、のろしなど。色だけだといちいち照合しないといけないので、だめ。
※	単独開催は無駄なので、やめていただきたい。分子生物学と生化学を分けるのは時代遅れと思う。基本は合同開催にして、3年に一度くらい、多くの学会が参加するのが良いと思います。
※	会場が分散してしまい到達しにくいことと、本来の 分子生物学会としての会員交流という学会の意義が薄れた。
※	分子生物学会と生化学会を一緒にしたほうが良い。二つ存在すると面倒。
※	合同開催は数年に一度が良いでしょう。
※	規模が大きすぎるので、別にした方が良い。
※	今回のような多くの学会が参加するものは分子生物学会または生化学会の年会とは異なるものとして、別にあるとよい。
※	生化学学会と早く合併してほしい。
※	異分野融合研究を促進させるために、今回のように多くの学会が参加する形式は有効だと思います。
※	会員も共通する似たような学会が多すぎて負担が大変。特に分子生物学会と生化学会は少なくとも 二年に一度は合同年会にして、9月と12月、交互に開催してはどうでしょうか？この2つの大きな学会が合同でやらない年には、もう少し小さな学会との合同にすると良いと思います。
※	基本的には今まで通り分子生物と生化学会の合同で良いと思いますが、他の学会の参加も希望があれば認めても良いと思います。ただ、その場合は、例えば発生学会が参加するのであれば、単に発生学会のシンポジウムを1つ加えるというのではなく、発生分野での発表を希望する全ての演題の取りまとめを発生学会に任せ、1つの会場は会期を通してシンポジウム、ワークショップ、一般演題など、発生の演題が聞けるなど、独立性を高める必要があると思います。
※	大きくなりすぎて主張が散漫になったり見落としたりしやすいけれど、まったく知らない世界に興味を持つこともできるので、いいところも悪いところもあると思う
※	分子の立体構造情報が、Cryo電子顕微鏡の進歩も相俟って、豊富に入手できる時代になった。それに伴って、生命科学の研究者も、「化学系や物理系の研究者と共同研究できる程度の、最低限の化学や物理学の習得」が、ますます必要になってきている。 そのような時代の流れに対応して、化学会や物理学会の生物系研究者との合同開催も、検討してみてはいかがでしょう？
※	多くの学会が参加する形式を数年に1度開催するのがいいと思う。それ以外の機会は単一学会の開催でよい。
※	あまり分子生物学会と生化学会の合同開催の時と、違いがわからなかった。
※	分子生物学会と生化学会のみの合同開催は必須で、それに他の学会が参加する形がよい。分子生物学会と生化学会が合同開催をせずに、他の学会がそれに加わるのは生命科学分野がさらに混乱する。

質問22-7. 今後の大会の開催形式について ＜複数回答可＞ （その他）

回答者番号	その他記述
※	多くの学会が参加する形式はとても良いが、頻度はあまり多くなくて良いと思う。4～5年に一度ぐらいで良いのでは。
※	合同・協賛で開催することでジャンルなど広がって良かったが、反面で発表数が膨大になってフォローしづらい面もあった。どのあたりの規模で調整するかが課題。
※	今回の規模の年会は数年に1回でいいと思う。
※	分子生物学会の一会員として、会員を第一に考える年会を開催してもらうことを願うのは当然と思うのだが。会員が会場に足を運ぶのに異常な混雑を強いて、データが見えない会場に立たされて、さらに地域に迷惑をかけてまで開催するような年会はしない方がよい。これらの問題の解決を目指す実験を年会において実行するには、基本的に年会長を中心とした実行委員会にある程度任すしかないのではないか。分子生物学会の会員として、分子生物学会に主体的に動いてもらいたい。他学会がその趣旨に賛同されるのでしたら、共催との形式で部分的な参加は会場事情が許す範囲で受け入れたらよい。船頭多くして問題は解決しない。
※	他の学会との合同開催の利点は感じられなかった。
※	どのセッションがどの学会の共催なのかわからなかった。
※	長短ありです。数年に1回の合同は楽しいと思います。
※	生化学会と分子生物学会は、根本的に点で研究に対する姿勢が違う。特に分子生物学会は、研究発表の場として年会を組織することがおもな目的である。生化学会には、生化学という学問を発展するという本来の目的をもっと自覚してほしい。本当に、分子生物学会と生化学会のみの合同開催を願うのであれば生化学会と分子生物学会は一度発展的に、解消して、新組織としてやるべきである。
※	時々の合同大会でいいと思う
※	上記1, 2, 3を定期的に行うのがよい。
※	分子生物学会と生化学会は基本的に合同開催にしてほしい。他の学会の参加はあってもなくても構わない。
※	実質的に研究コミュニティは縮小していて、かつ多様性が減少しているにも関わらず、学会数が減少しないことは多くの研究者にとってデメリットになっている。ConBioのような企画を通じて、次第に集約していくことが望ましい。
※	今回は、分子生物学会と生化学会の合同で、それ以外は協賛でしたが、今後は今回協賛だった学会の多くと合同で開催して欲しい。
※	合同開催は、規模が大きすぎて（特にポスター発表は演題数が多すぎ、内容も会場も分散しすぎて）聴講しにくいので、さらなる工夫が必要。しかし、各種学会を超えた潮流を感じることができる面もあるので、10年に1回程度は開催しても良いと思う。
※	会場の規模に応じて参加学会の数は制限すべきだと思う。
※	およそ3年おきに今回のような合同大会を開催するのはいかがでしょうか。場所は幕張メッセなど、固定で良いと思います。
※	両学会には早い時期に合併してほしい。合併までは、隔年等、定期的に合同学会としてほしい。合同開催か単独開催かの基準が不透明。会頭次第？
※	私は、大会の適正規模は「各大学で行える規模」だと思います。具体的には、日本蛋白質科学会、日本組織細胞化学会などの専門的な分野の学会の大会が「規模と学術的な充実度（密度）が最も優れている」という印象です。この規模の学会を、国体のようになるべく多くの都道府県を巡って開催していくのが理想的だと思います。だいたい、神戸と横浜ばかりで大会・年会を開催することには疑問を感じています。

質問23. その他、大会運営全般についてのご意見

回答者番号	意見記述
※	規模を大きくしすぎることにより、聞きたい発表が重複により聞けなくなる、聞きたい発表を見つけにくくなる、宿泊施設が足りなくなる、などの事情も考慮して欲しい。大会の全体像が見えなかった。
※	非常に盛況でしたが，やはり規模が大きすぎて，4日間で同じ分野が毎日ポスターが出ていたが，時期も大学でのdutyがある時期なので，全ての日程を参加することが困難であり，見に行けないものもありました。また，午前中などの人の少ない時間帯にポスターを写真撮影している人もおり，少しモラルなどの点でも，この規模では難しいかと思いました。
※	冊子体のプログラムに筆頭発表者の名前しかのっていないのは非常に不便であった。今後は絶対やめてほしい。
※	アンケートに「どちらでもない」「例年と変わらず」などの選択肢があった方が良い。
※	ルミナリエと重なって、良くない。時期は要検討
※	午後のセッションの空席が目立ったように感じましたがそんなことなかったでしょうか。
※	ありがとうございました。
※	・ポスター会場が4会場もあるのは、如何なものか？・ポスターを見るために建物間移動をすることは、時間のロスも大きい。・機器の展示も一箇所にすべき。
※	会場が大きすぎて（複数に分かれていて）迷いました。
※	会場が広すぎて移動が大変だった。もう少し発表件数を絞っても良かったと思う。
※	WiFiの使えるエリアをもっと増やして欲しい．ホテル会場で使用できなかったのは不便．
※	学生の参加登録を一括して手続きできるようにして下さい。
※	商工会議所を使うならセッションを減らしたほうがよい。発表者にも座長にもあの会場ではつらい。
※	・巨大化しすぎて、全体的に”薄味”な印象。通常、年会に期待することの多くがかなわず、不満が多い学会であった。当日、会場に到着するまで、これまで巨大な学会であるという認識がなかった。多学会合同開催する意義を、参加者・発表者に十分に知らせていない。今回のような”お祭り”であれば、今後は参加を見合わせたい。会期も長く、参加にかけた費用に対し、得られる成果が見合わない。
※	お疲れ様でした。
※	アプリなどは優れていたが、このアンケートシステムは使い勝手が悪い。
※	生化学会の単独開催より、今回は面白かったと個人的な感覚ですが思いました。個人的な興味や関心も時を追うごとに変化します。学会ごとに重視している（流行っている）領域も遷移していきます。複数の学会が取り込まれることで、生命科学の領域が遍く張られ、いずれの参加者も取りこぼされることなく、同様の関心を抱く研究者と交流できるうえ、異分野の研究者とも議論を深められます。どの分野、テーマに対してもオープンな学会に参加すると、とても活性化されます。
※	イブニングセッションが充実していてとてもおもしろかったです。
※	プレナリ-レクチャーと他の講演が同時進行であったために、プレナリ-レクチャーが聴けないことがあった。今回のように特に著名な方がプレナリ-レクチャーをされる際にはもう少し広い会場の方が良い。会場が広すぎで移動が大変であった。神戸の場合、朝のラッシュが酷い。
※	特になし。
※	ランチョンが少ないなら、昼食のサービスにも配慮して欲しい。座る場所すらない。外は寒いし。ポスターにはカテゴリーがその場に明記してあると助かる。クロークは7時までだったが、企画はそれ以降もあった。荷物がある場合はとても不便だ。
※	プログラム冊子に、昨年までのように発表者の索引を入れてください。これが無いのはとても不便でした。
※	ポスター発表の時間が、よい時間帯に十分に確保されている点を大変有難く思った。
※	運営お疲れ様でした。
※	4日間にするのであれば、発表日の事前選択システムの導入を検討してほしい
※	今回は、英語のセッションに比べて、日本語のセッションが多いと感じた。ワークショップなどの口頭発表では、セッション毎に英語と日本語のどちらかのみを使用言語として選択させる（併用はやりづらい）、英語のセッションと日本語のセッションをそれぞれ半分ずつ採択するなどの工夫が必要だと思う。多くの日本人研究にとって、英語で発表や議論する機会は確実に増えており、スキルも向上しているので、参加者は問題なく対応できると思う。ポスターでは海外（特にアジア諸国）からの参加者も多く見られたので、日本語ばかりでは議論が盛り上がらないと感じた。
※	●●先生が、会場の雰囲気を知るため、実際会場を歩いて情報を得ている姿には、感銘を受けました。
※	年会費は1万円以下にしてほしい。
※	分生と生化学会には本気の合併を模索してほしいです。
※	最終日にも、ポスター発表、企業ブース・休憩コーナーを残した方が良いのでは？
※	今後ますます生命科学系学会の合同開催、連合への道が進むことを期待します。
※	いつもどおり、奇をてらわず、分子生物学会として、議論をすればよいと思いますが…。
※	規模が大きくなりすぎたせいか、ワークショップで聞きたいものが重なるのが今回の悩みの種でした。生化学会、分子生物学会のみの合同で、会期4日間くらいが規模の上限なのではないかと感じました。
※	夜間までいろいろなテーマでの集まりも企画され、とても充実したものでした。運営に当たられた方々に御礼申し上げます。
※	要旨集が使い勝手が悪い印象でした。特に参加発表者単独ではなく全ての発表者の氏名を掲載してほしかった。また、要旨集で索引検索もできるようにして欲しかった。
※	今回、学部生が無料で無かったことは大変問題が大きいと感じた。学部生が参加できると研究へのモチベーションも上がると思う。
※	神戸では会場の建物がいくつもあり、非常に分かりにくかったし、不便だった。特に商工会議所は使用しないように工夫してほしい。

質問23. その他、大会運営全般についてのご意見

回答者番号	意見記述
※	口演会場は天井が低いところが多く、スクリーンの下部が前席の聴衆の頭部により見にくい。また、座席が窮屈にならないように椅子の左右にもう少し隙間をあけてもらいたい。
※	神戸、横浜以外での開催も検討して欲しい。
※	ありがとうございました。
※	ほとんどの生命系の研究室は分子生物学会か生化学会に所属しており、今回協賛によりセッションを増やしたことにより、同じ研究室から複数スタッフ/ポスドクがシンポジウムやWSで発表するという事態が起きていた。20以上のシンポジウムやWSが並行する中では、落ち着いて関連分野の発表をカバーすることができず、また発表する側も、聴衆が希釈され十分アピールや議論ができない印象を受けた。巨大な学会をを開催することは、メリットよりもデメリットのほうが多かったように思う。
※	運営事務局の方々の対応は、毎年のことですが、非常に良いもので、発表者としては心強く感じています。いつもどうもありがとうございます。
※	発表会場内でパソコンを持ち込んで凄くうるさくタイプする人が居ます。静かにタイプするように、出来ないなら使わないように予め何らかの形でアナウンスしてほしいです。スライドが見えにくい部屋は使わないでほしいです。これは本当になんとかして欲しいです。
※	大会が大きすぎて、聞きたいトピックが同じ時間帯に重複し、ほとんど聞けなかったのが残念でした。また、ホテルも高騰し、予約も満室で、ポートライナーも大混雑でした。せめて三宮からシャトルバスでもだせないものでしょうか。
※	オンデマンド配信がよくなかった。ワークショップが多すぎ、一般講演が少なすぎる。
※	私個人は大きい学会でいろいろな分野の演題を見たいタイプなので、他学会との合同開催だと発表内容が多様になって見ごたえがありました。
※	盛会でした。どうもありがとうございました。
※	これまでで最悪の分子生物学会であった。
※	とてもよかったです。お疲れ様でした。
※	神戸は定番なのでしょうが、会場間の移動距離が長すぎて疲れます。ホテルの設備も古くて学会に対応しきれていない印象です。
※	今回と同様に多くの学会が参加する形式の開催を継続して実施して欲しいと思います．学生会員は大会のみならず，論文投稿についても会員と同等の権利が得られるようになれば，負担が減ると思いました．
※	学会の規模に比べ、会期が短いような気がしました。もう少し余裕のある日程ならば、様々な発表が聞けて良いかと思います。
※	シンポジウムやフィーラム、こうとう・ポスター発表は、どの研究領域が何日にあるか、参加申し込みの時にわかるようにしてほしい。
※	分子生物学会と生化学会は、一つの学会になるべきだと思います。
※	ポスターの会場数を減らしてほしい（なるべく一箇所にまとめてほしい）。
※	今回は管理職の用事が重なり、2日しか参加できずに悔いが残った。研究の打ち合わせと関連分野のWSで時間切れ。
※	毎回合同開催が良い。
※	紙媒体（冊子）で送られて来たものは、会員名簿による検索が出来ないため使えませんでした。会費内で収めるために尽力されてのこととは思いますが、あの冊子ならば作らない方が良いとの意見を私を含めてたくさん耳にしました。
※	ヘテロな背景の聴衆が集うことは意義がある。しかしあまりに広すぎて全体像を捉えきれず、その意味においては、単独開催も意味がある。合同開催は、2-3年に一度として制度化してはどうかと思う。
※	神戸では会場間の移動距離が大きすぎる。
※	オンデマンド配信はぜひ、来年も取り入れていただけるとうれしいです。
※	企業展示が充実しているのがありがたい。製品をみれるし。打合せもできる。複数の学会をまとめて開催する大きなメリットだと思います。展示料金を下げる、面積を増やす、などして、もっと増やしてもよいと思います。
※	これだけの人数が参加する学会を運営するのは大変だと思います。人数が多いので学会を開催できる会場が限られてくるのは仕方がないと思いますが、神戸・横浜・福岡以外の都市でも開催できればと思います。
※	学会規模が大きすぎてホテルが予約できず飛行機で日帰りした。学生などは民泊などしたときいていますが、宿泊はいい環境ではなかったと思う。
※	プレナリ―レクチャーの会場キャパの問題は大きいです。あれだけの講師の話をたった1度の学会で聴けたはずなのに、聴講を断念した参加者も多かったと思うと残念でなりません。
※	プレナリーレクチャーと他プログラムが並行して組まれているので、希望のプレナリーレクチャーを聴講できませんでした。可能であれば、時間が離れていると良いと思います。
※	ワークショップやシンポジウムのテーマが重ならないように、絞って欲しい。会場に人が溢れて、座れない講演会場があったので、部屋サイズを工夫して欲しい。要旨集の冊子は筆頭著者しか書いていないため、どこの研究室の研究か非常にわかりにくかった。全員の名前を入れて欲しい。名前の索引がなかったので、非常に不便だった。
※	アプリの方に全体地図がなかったので、商工会議所へいくとき、どう行けばいいか分からなかった。冊子をたまたま持っていたので分かった。どちらかだけで全て載っているのがよい。
※	オンデマンド配信の導入はとても良いと思いました。
※	ワークショップ、シンポジウムの発表者が年長の方ばかりで、そういう方々は発表が下手な場合が多く、つまらない。若手を積極的に登用するべき。

質問23. その他、大会運営全般についてのご意見

回答者番号	意見記述
※	●●の論文不正疑惑がろくな調査も説明も行われずに2017年8月に不正なしとされたことは大問題です。●●誌上で修正がすでになされているから調査しないなどというロジックを許したら科学は成り立ちません。その不正なしの裁定をした調査班長が●●です。ですので2018年の分子生物学会のプログラムについては非常に強く危惧しています。分子生物学会はもはや真人間が参加するべき学会ではないのでしょうか。
※	規模が大きすぎた、という点を除けば特にありません。
※	最終日のプログラムが少なく、魅力に欠けた。しかし、日程を短くすると忙しく回ることになり、展示等は見ることができなくなると思う。これだけ大きい大会は、全日程を平日にして、最終日も他の日と変わらず、ポスター、企業出展等最後まで行うと良いと思う。
※	若手支援を充実させるべきだと思います。あと、仲良しグループが毎年同じような演者構成でシンポジウムやワークショップをやったりしてるのを見かけますが、改善されるべき悪習だと思います。
※	ポスター発表は夕方の時間帯の方がよい。
※	非常に良い学会で、満足しました。
※	今回のオンデマンド配信は非常に良いシステムだと思います。毎年、分子生物学会はどうしても聞けない発表が出てきてしまって残念に思っていましたので。
※	神戸だと交通機関がポートライナーしかないので電車が混んでしまったり、三ノ宮付近のホテルが埋まってしまうのは問題だと思う。そのため今後も合同開催を行う場合は横浜等アクセスのよい（交通手段が豊富な）会場で開催してほしい。
※	学会をひとまとめにすれば、支払うコスト（参加費・出張費）が減って良い。しかし、協賛という形だけで結局協賛学会が開催されるなら手間が増えるだけで良い面はない。最終的に多くの学会が年会として参加できる場を提供できるようなシステムが望ましい。
※	コンピュータの充電が出来る施設を数多く設置して欲しい。
※	私は生物化学を専門とする大学教員ですが、分子生物学会およびその合同学会は、細胞生物学者を含む異分野研究者から厳しい意見を頂き、そして自身の研究の意義を確かめることのできる、貴重な場になっています。研究室の大学院生たちもとても刺激的だったと言っています。今後も新しい研究成果を携えて参加したいと思っています。
※	もともとキャパシティーに限りがある神戸で開催したことに一番の原因でしょうが、学会で確保するホテルの部屋数が少なすぎると思います。事前にもっと多くの部屋を学会として確保する努力が必要だったと思います。外国人観光客が多くて部屋を確保しにくい現状は理解できますが、なんとかなりませんか？東横インなどホテルチェーンに協力を依頼すれば、さらに500部屋ぐらい確保できたのでは？今回参加を決めたのが開催一ヶ月前で、その時点で神戸市内では手頃なホテルに空き部屋はなく（空いているのはラブホテルだけ）、私も含めて多くの人が尼崎や大阪に宿を取らざるを得ませんでした。あと今後も神戸でやるなら、三宮と会場間のシャトルバスを走らせてほしい。ポートライナーの輸送力は貧弱で、結果的にポートアイランド内通勤者通学者居住者に迷惑をかけているのでは？
※	プログラム冊子に発表者のindexがなく、個別に検索しないと見つけられないのは極めて不便だった。発表者の多くは日本人だったので、千題を超える数のポスターを会場でざっと見るには、ポスター発表の演題名を英和並記にするとより見やすかったのではないだろうか。
※	暖かいランチが食べられる屋台村の種類がもっとあれば良かった。サンドイッチは、外で食べるには寒すぎた。
※	会場が分散しすぎて移動に時間がかかった。また、会場がどこか分かりづらく、間違えるとかなりの距離を移動する必要があり、疲れた。
※	当日支払いをクレジットカードでできる受付の場所がわかりづらく、またホテルの案内係も十分わかっていなかったので不便だった。
※	後半のワークショップ、シンポジウムの時間は15:00-17:30でいいのでは？
※	discussionや打ち合わせに使えるスペースを増やして欲しい。ポスター会場の外周に椅子を並べるだけでも良い。
※	シンポジウム、ワークショップの数が多すぎます。それらで、研究室の主催者と研究室員が同じ内容を発表しているものが散見されました。
※	プレナリーレクチャーの会場の収容人数がもっと多い方が良いと思いました。
※	宿泊施設が取れなかった。
※	2013年の音楽や芸術を復活してほしい。
※	2013年の音楽や芸術を復活してほしい。
※	発表者の名簿がすぐにみえないのが不便であった。
※	大変勉強になり、刺激を受けました。Itシステムのアプリは大変有用でしたし、オンデマンドがあったのも、聞きたいところが同時進行の者は後で聞ける、という安心から、ない方を優先する、といったことができたので助かりました。ただ、オンデマンドのセッションでも、全てではなかったのは残念です。（ただ、これは演者の発表内容次第なので仕方がないとも思っています。）とても良いチャレンジだと思います。これからもよろしくお願いします。
※	プログラムの人名索引(印刷)は必須と思います　　非ハイテク人種より
※	毎回のことですが、昼食が問題だと思いました。参加者全員にランチボックスを用意するか、参加登録時に購入し会場で受け取るなどのシステムがあってもよいと思います。
※	大会HPの日程表の4日目のPDFが壊れているのか、半ページ分しかデータが来なかった。冊子版をコピーするよりPDFを印刷したほうがきれいだから、職場に提出するために使いたかったが、できなかった。
※	基本的に発表原稿は英語で、というのは良かったが、海外ゲストはワークショップやシンポジウムの内容をほとんど理解できていないような印象を受けた。その方向でいくならば、最初からもう少し分かりやすく明示したほうがいいのではないか、と感じた。

質問23. その他、大会運営全般についてのご意見

回答者番号	意見記述
※	参加者が多いのが良い点でもあり悪い点でもあった。会場が大きくなり、各部屋が遠くなるので、同じ時間帯に複数のセッションを移動しながら聴講することが難しかった。合同開催でも口頭発表の数はもう少し絞ってもいいように感じた。海外からの招待講演をもう少し増やして欲しい。
※	去年の年会も良かったのですが、今年はセッションやランチョンセミナーにて勉強になったとより強く感じました。
※	お疲れさまでした。今回は単に学会がたくさん集まっただけの目玉企画がない寒い大会でしたが、来年以降期待しています。
※	協賛団体の参加により興味深いテーマが増え、四日間とても充実して勉強になった。興味のあるワークショップが同じ時間帯に複数重なっていたので、オンデマンド配信はありがたいです。
※	不参加
※	それぞれのジャンルでの発表順がばらばらである。たとえば疾患生物学でも各疾患別に分類されてなく、ばらばらであった。演題が多いのでサブジャンルもちゃんと分類すべきである。
※	ポートアイランドで開催するのであれば、昼食は会場周辺で確保できるようにしてもらわないと困る。オンデマンド配信に投資するのであれば、その分でランチョンの数なりを増やすようにした方がいいと思います。
※	配布されたプログラム集に著者索引がなかったため、ほとんど役に立たなかった。演題に添えられた著者も筆頭著者のみというのは、あらゆる面でよくなかった。コンパクトに要領よくまとめられていただけに非常に残念であった。
※	ConBio2017は画期的であったが、学会規模が大きすぎたための問題も多かったと思う。開催は、5年に一度の開催（会場が十分確保できる場所で）が良いと思った。
※	捏造問題は完全にスルーですか？綺麗ごとばっかりの研究公正トークは反吐が出ます。するなら徹底的にする！
※	今回のConBio2017は大きな成功だったと思います。これを契機に、分子生物学会と生化学会が合併することを真剣に考え、その方向に具体的に進む出すことを期待します。
※	大き過ぎる学会の意義を問い直すべき
※	英語のセッションがあまりに少なく、びっくりした。完全英語化している発生生物学会と比べると、海外の研究者も少なく、国際化が遅れている印象があった。今後、日本の研究を世界にアピールする上でも、もっと英語のセッションが増えた方が良い。
※	合同年会は二度とやらないで欲しい。政治的な理由で連携する必要があるとしても、年会を合同にする必要はない。「生命科学系学会合同年次大会」というアイデアがどこから来たのかはわからないが、単なる寄せ集めで「生命科学の各専門領域がさらに深化・発展」したり、「新しい時代の生命科学研究に必要な素養を養う」ことが可能になるとはとても思えない。学会は規模が大きくなればなるほどコミュニティーの意味が薄れ、会員へのメリットが小さくなるものである。単独で年会の運営ができないのならば、思い切って学会を解散してはどうか。個人的には、今回の年会は、これまで参加した中で最も意味の無いものであった。
※	会場の神戸ポートアイランドは、この規模の学会を行うには狭く感じる。また、施設の老朽化も気になる。国内に適当な会場が無いのかもしれないのなら、合同大会などの学会の巨大化には賛成しかねる。
※	ポスター発表の時間帯が夕方から昼になったのは大変良かったと思います。
※	大変有意義な学会であり、参加して本当に良かったと思いました。運営・企画関係の皆様、発表者の皆様に感謝申し上げます。
※	会場に格差がありすぎではないか。会場ごとが案内はもちろん全体として何処に何があるかわかりにくい。まずは、全体の会場が、余りに連携が取れていないので、こうしたおおきな学会には向かない。そして、会場案内が大変わかりにくい。会場での案内をもっと分かり易くすべきではないか。たまにしか参加しない私は、会場を探すのに多いに迷った。
※	いくら何でも規模が大きすぎて、一般演題では分野の違う演者を寄せ集めすぎたセッションもあって、座長も参加者も質問に困っているものがいくつか見受けられた。
※	初日の9時からの発表のため、国際展示場2号館1階のクロークに8時過ぎに行ったが、開設は9時だと断られる運営の不手際があった。
※	特になし。
※	新しい企画ということで、オーガナイザーの先生方にはご苦労も多かったことと思います。どうもありがとうございました。
※	もう少し英語のセッションが増えてほしい
※	今回の共催で、分子生物学会以外の学会が、どのようなことを企画して共催していたのかが伝わってこなかったかっ他ので、この共催の意義が問えない仕組みになっていると思いました。運営者の問題だと思いますが、試行しただけでは次につながらないと思います。
※	成否は様々な角度から判断する必要があり、多様な判断が当然あるべきだ。「今後はこのような年会の形式に統一すべきだ。」との画一的な方針には反対する。それでも、このような試みを実現させた年会長には敬意を表します。ご苦労さまでした。
※	企業展示の時間が短すぎ。プログラムが分かりにくすぎ。ポスターからの口頭発表採択を止めればすっきりすると思う。JSTのサテライトシンポジウムに本大会とは別に参加登録が必要な意味が分からない。このような形態のシンポジウムを許していいと思わない。学会がJSTの下請けになっており、サイエンスに対するオープンな精神への冒涜と感じた。
※	ユニオン形式でたくさんの学会や分野が集まるイベントも良い。
※	分子生物学会の大会もConBioの大会もほとんど差を感じなかった（いい意味で）。今後は毎回ConBioとしての大会でよいのではないか？　日本の科学の発展のためには、その方がよいと思う。少なくとも生化学会の大会は不要。

質問23. その他、大会運営全般についてのご意見

回答者番号	意見記述
※	神戸ポートアイランドは、老朽化が目立ち、会場の移動も大変だった。この規模の大会を開催するために適当な会場が国内に無いのであれば、大会開催規模を再考する必要があると思う。
※	学会同士のコラボはこれからどんどん必要になるとお思います。
※	プログラム冊子（紙媒体）について、発表者は演者単独だけでなく共著者全員を掲載すると共に、「著者の索引」をつけてほしい。
※	学会の規模が大きくなりすぎて、会場の移動も大変だし、研究者同士の交流の場も希薄になっている。もっと研究テーマを絞って、密度の濃い学会を運営してもらえると有り難い。例えば、隔年ごとに大きくテーマを入れ替えれば、規模は約半分ですむ。
※	神戸は宿泊と食事に苦労する
※	今回の合同学会はとても刺激的であり、非常に有意義な学会であったと思います。また合同学会であったがゆえに、1つ希望がございました。研究室を立ち上げたばかりの私にとって、ともに仕事をしてくれる人材が必要であり、可能であれば、学会の1つのコーナーでも良いので、仕事を探している方や、大学院に入学したい方などと、人材を募集している先生方との「相互に話ができる出会いの場」なるものがあれば、とても良かったなあと思いました。学会は異分野な研究者や学生、あるいは共同研究に発展するような人と人とのコミュニケーシュンの場であるので、もし可能でありましたら、今後の学会運営においてご検討いただけますと幸いに存じます。今後とも何卒、よろしくお願い申し上げます。このたびは素晴らしい学会に参加させていただき、誠にありがとうございました。
※	多分野の方の発表を聞けて、また、多分野の方が自分の発表を聞きに来てくれて、自分の研究を発展させていく上で非常に有意義な場でした。生命科学系の研究者が一堂に会する機会が年に1回あることは、非常に重要だと思います。ぜひこの形式を来年以降も継続していって欲しいと思います。
※	分子生物学会は、今後も単独の開催をすることを原則に運営してほしい。
※	大きな学会をよくオーガナイズされていたと思います。お疲れ様でした。
※	生理学会から参加しました。協賛学会という形で門戸を開いていただき誠にありがとうございます。学会の枠を超えた素晴らしい取り組みだと思います。今後も、ぜひ続けていただきたいと強く期待しております。
※	会場内も含めてもっと多くの場所でWifiが使えるようにしてもらいたかった。
※	プレナリーレクチャーが日本語だったことが、以下の理由により非常によかった。・異分野の講演も聴きやすい・学生へのメッセージを英語で言われても心に響かない（主に日本の学生に対するメッセージなのか、留学生や海外招待者に対するメッセージなのか）・裏話なども聞ける・実験結果だけではなく、講演者の先生の考え方などが伝わりやすい（後者の方が重要。研究成果は教科書に載っている）
※	学会としてカネをプールしすぎだと思う。金があるのに参加費が高いのは理解できない。還元すべき。
※	1万人を超える参加者の学会を運営することは非常に大変であったと思います。ありがとうございました。
※	頻繁に合同開催とするならば、個々の学会を合体させたほうが早いように思います。個別に存在する意味はないのではないでしょうか？個別の意義があるからこそ、じっくりと討論できるかと・・・。
※	・海外の同規模の学会に比べ開催期間が短すぎる・ポスターは同時発表数が多すぎて回ることは不可能であった。全発表を許可するのではなく、発表に値しないと思われるものについては拒絶するべき。
※	いつも参加できずにいます。今後は、できるだけ、参加したいと思いますが、12月上旬は実習のため参加できません。時期の再考をお願いします。
※	協賛学会の関連する集会がかなり並行して行われており、各学会の集会の意味付けがよくわからない。とにかく会場と発表が多岐にわたり過ぎて雑多な感が強く、一か所に集まってやる意味が分からなくなってしまう。何年かに一度の万博のようなお祭りとしては良いかもしれないが、本来の学会年会に求める成果発表の場や情報収集、意見交換の意味では、かなりやりにくい大会であった。来年も同じ形式になるとしたら、参加しないかもしれません。
※	プログラム冊子に索引（特に発表者氏名）が無いために使用しにくかった。索引は必須。 プレナリーレクチャー会場の収容人数が少ない。別会場で全員が椅子に座って聞けるように席を確保するべき。
※	学会としては複数あっても良いと思いますが、今後、発表の場という学術集会は、多くの学会が合同で開催することを望みます。
※	ポスター賞とディスカッサーが無かったのが、極めて残念。このため、学生の発表に対してモチベーションを高めることが難しかった。学会の将来（若手の育成）のために、ポスター賞とディスカッサーを必須・最重要項目としてほしい。
※	発表時間、質問時間を守れるように厳しくすべき。時間が過ぎてからの質問や、時間を守らない発表は良くない。
※	神戸国際会議場およびポートピアホテルの会場のスクリーン画面が暗かった。プロジェクターが古いためか。。。
※	高校生の口頭発表・ポスター発表が会期末で、会場も全体の中では辺鄙な場所になっていたのは残念だった。将来の有望な学会員を育てるという観点ならば、通りすがりでも目にとめてもらえるような日程・場所を提供すべきだと思う。
※	野心的な取り組みで、大変良かった。●●先生のご活躍は、評価に値すると思う。
※	会場間が離れすぎていると感じた
※	協賛学会の学会員ですが、興味深い話題を知ることができました。定期的に（4年に1回など）このような生命科学系合同学会が開かれると小生のようなシニアにとって、良い勉強の機会になると思いました。
※	交流の効率を考えた時に、合同で大きな大会にすれば良いというものではないということが身にしみてよくわかった。あまりに大きな合同大会なら効率が悪いので今後は参加したくないと思った。

質問23. その他、大会運営全般についてのご意見

回答者番号	意見記述
※	演題数の多さ、移動距離（精神的な感じ方も含めた距離）の長さも相当なもので、体調が万全なことは前提であり、それに加えて精神的に相当（！）高揚している状態を数日間持続し続けないと大会のメリット（理念？）を充分に享受することは無理だと思いました。 これは、自分が発表しないで参加する場合のことです。これに自分の発表が加わるわけですから、時間がもっとタイトになり、上記のことがさらに重く感じることになります。 プレナリーレクチャーを行なった●●先生がブログに書いている内容がConBio2017 の様子をよく現していると思います。●●先生は「まあ何年かに一度やればいいのかなという印象」と記されていますが、私は「生命科学系学会合同年次大会は10年に一度」が適正な開催の間隔だと思います。企画する側は規模が大きい盛会を実施することに充実感を感じると思いますが、企画者以外の参加者側からすれば「学術的な充実度（密度）は会の規模には比例しない」と感じます。
※	規模が大きすぎてただのお祭りみたいだった
※	スクリーンが小さく、また低い位置に設定してあり大変見にくい部屋が多かったので、ぜひ改善してほしい
※	成功おめでとうございます。
※	会場内の机と椅子が足りない。机の幅も狭く、パソコンでの業務が全くできなかった。
※	このアンケートに、回答を途中で保存できるような機能がつくと、答えやすいと、いつも思います。
※	テーマをばらけさせてほしい。私の分野で言えば、二日目は関連の講演が全くなかったのに対し、三日目は同じ時間帯に関連講演が重なってしまい、全てを聞くことができなかった。
※	冊子体プログラムの大幅な改善を希望する。とにかく発表者全員の記載と発表者名索引がないので、全く使い物にならない。
※	ポスター会場でwifiが使用できないのは不便。
※	狭いポスター会場でリュックを背負ったままの者が多く、邪魔である。（禁止という運営をすべき）皆が皆、スマホを持っている訳ではないのだから、紙ベースのものも用意すべき（無償で）。
※	学会は会費を支払っている学会員で成立している。学会は、学会員の自主性を最大限に尊重すべき。だが、生化学会のみならず、分子生物学会もトップダウン的になり、内容にも差がない。今やこの2学会が別々に存続する意義は一般会員（役員などの運営者でないという意味）には感じられずデメリットの方が大きいと感じる。